DENON

取扱説明書

DRA-F101

STEREO RECEIVER

ステレオレシーバー

安全にお使いいただくために―必ずお守りください。

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

目　次

1 使用上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

絵表示について　この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠ 警 告

■安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。
お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。

電源プラグを
コンセントから抜け

内部に異物を入れない

通風孔などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

水が入ったり、濡らしたりしないように

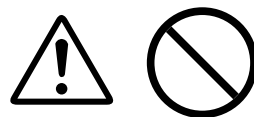
雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
火災・感電の原因となります。

使用上のご注意（つづき）

⚠ 警 告 つづき

■安全上お守りいただきたいこと

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

キャビネット（天板・裏ぶた）を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。
この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。

ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で

接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。
また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器（電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など）は接続しないでください。

雷が鳴り出したら

アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水場での使用禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器を置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

この機器の上に小さな金属物を置かない

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

使用上のご注意（つづき）

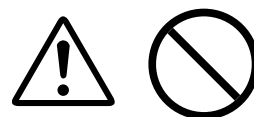
⚠ 注 意

■安全上お守りいただきたいこと

電源コードを熱器具に近づけない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは
電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。

電池を交換する場合は
極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する
テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器・スピーカーなどの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎない
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

■置き場所について

次のような場所には置かない
火災・感電の原因となることがあります。
- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

壁や他の機器から少し離して設置する
壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

使用上のご注意（つづき）

⚠ 注 意 つづき

■取り扱いについて

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いて使用する

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭ではご注意ください。
倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線・機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、
落下して、けがの原因となることがあります。

■使わないときは

長時間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

■お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。
感電の原因となることがあります。

5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうとより効果的です。
なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

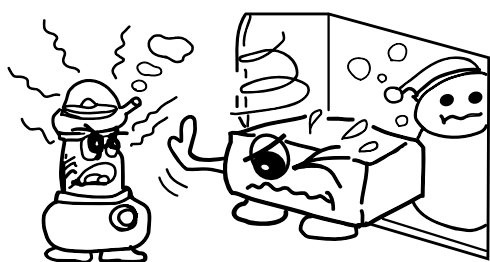
2 取り扱い上のご注意

結露現象について

■ 結露とは

冬期に暖房をした部屋の窓ガラスに水滴がつくような現象をいいます。

■ 結露が起こる条件は

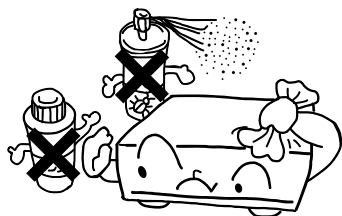
冬期などに本機を戸外から暖房中の室内に持ち込んだり、部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると本機内部の動作部に露がつき、正常に動作しなくなることがあります。
結露は、夏にエアコンの風が直接当たるところでも起こることがあります。その場合には本機の設置場所を変えてください。

■ 結露後の処置は

結露が起こった場合は、電源を入れてしばらく放置しておいてください。周囲の状況によって異なりますが、1～2時間で使用できるようになります。

お手入れについて

■ キャビネットや操作パネル部分の汚れをふきとるときは、柔らかい布を使用して軽くふきとってください。

◎ 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

■ ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると変質したり変色することがありますので使用しないでください。

ヘッドホン使用の際のご注意

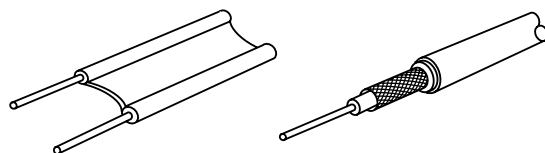
■ ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。
耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

設置の際のご注意

■ 本機やマイクロコンピューターを搭載した電子機器をチューナーやテレビと同時に使用する場合、チューナー・テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合は次の点に注意してください。

◎ 本機をチューナーやテレビからできるだけ離してください。

◎ チューナーやテレビのアンテナ線を本機の電源コードおよび入出力などのステレオ音声コードから離して設置してください。

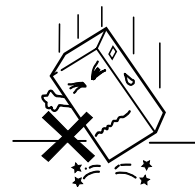
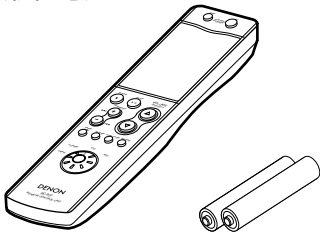
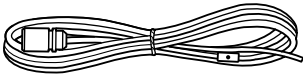
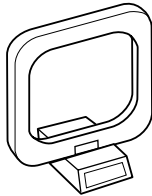
◎ 特に室内アンテナや300Ωフィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75Ω同軸ケーブルのご使用をおすすめします。

■ 放熱のため、本機の天面、後面および両側面と壁や他のAV機器などとは10cm以上離して設置してください。

使わないときは

■ ふだん使わないとき

◎ 電源を切っておいてください。
◎ 外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 移動させるとき

◎ 衝撃を与えないでください。

◎ 必ず電源プラグをコンセントから抜いて、他のオーディオ機器との接続コード類を取り外してから移動させてください。

3 本機の特長

1. “ 繊細さ ” と “ 力強さ ” を表現するHC-TRによる出力回路搭載
DENONの最高級モノラルパワーアンプPOA-S1に採用のUHC-MOSと同一思想によるHC-TR（High Current-トランジスター）を使用したシングル・プッシュプル回路により、安定した大電流供給と優れた小信号リニアリティを両立。これにより、“ 繊細さ ” と “ 力強さ ” の高次元での両立を実現しています。

2. HC-TRによる出力回路の表現力をバックアップする強力な電源回路
ハイスピード整流ダイオード、大型高音質ブロックコンデンサーにより構成された強力な電源回路が、HC-トランジスターによる出力回路の魅力を十分に発揮させます。

3. S.L.D.C.の採用
小信号回路、大信号回路、マイコン回路などを理想的に分離させたS.L.D.C.（Signal Level Divided Construction）を採用しています。

4. 時計・タイマー機能内蔵

5. AM/FMランダム40局プリセットチューナー

6. システムリモコン付属
D-F101シリーズのCDプレーヤー、MDレコーダーおよびカセットデッキをコントロールできるシステムリモコンを付属しています。（システム接続した場合に限ります。）

7. 低待機電力
電源スタンバイ時の待機電力を1W以下に低減しました。

4 付属品について

★ 本体とは別に下記の付属品がついています。ご使用の前にご確認ください。

システムリモコン（RC-927）1個 単4形乾電池 2本	FM用屋内アンテナ 1本	AM用アンテナ 1個
取扱説明書（本書） 1冊	製品のご相談と修理・ サービス窓口一覧表 1枚	保証書 （梱包箱に貼り付けられています）

ご注意

● 本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

ステレオ音のエチケット

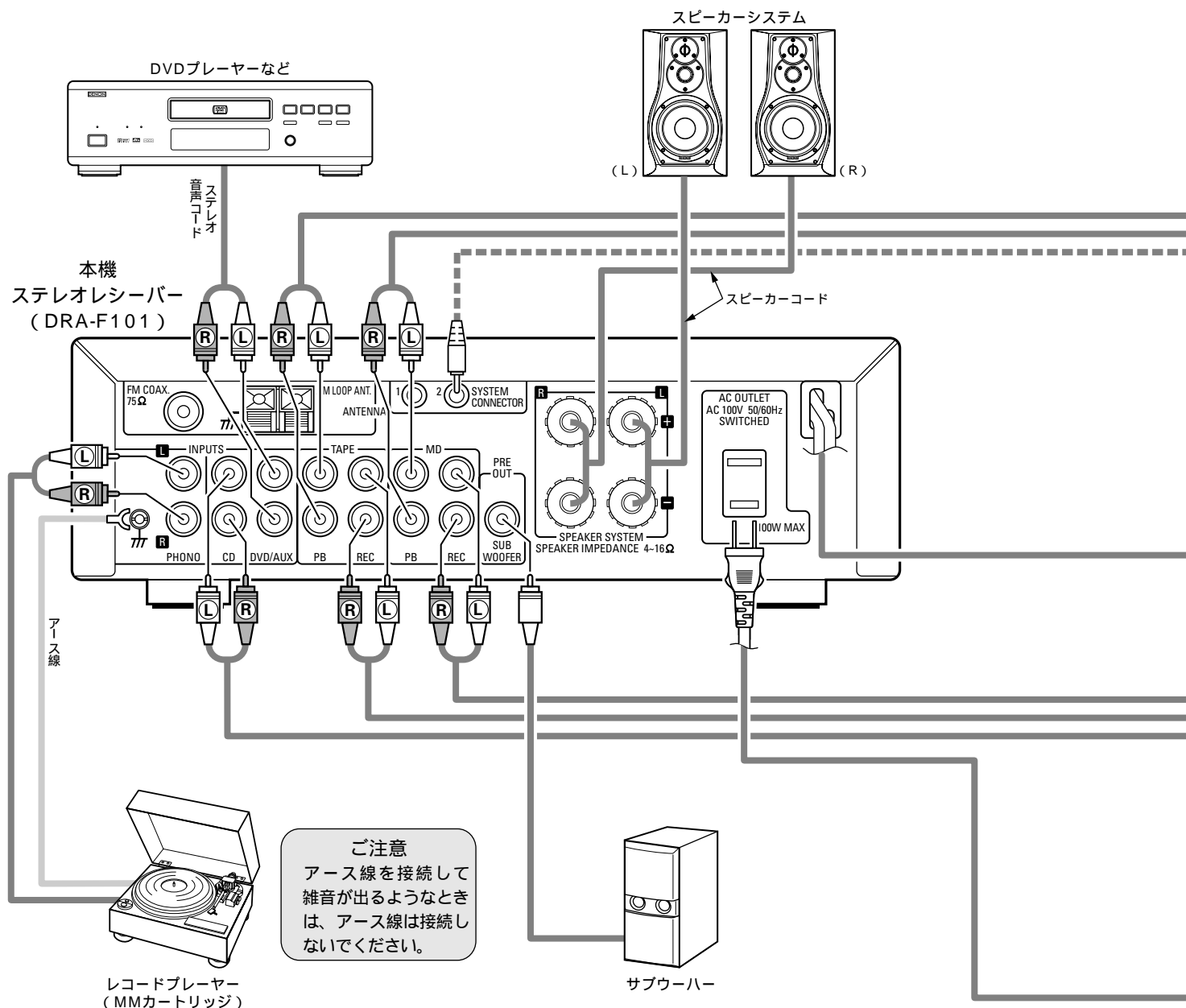
◎楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
◎隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
◎ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。
◎特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
◎窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
◎お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

5 接続のしかた

★ D-F101シリーズでのシステムセッティングは9ページの「推奨システムセッティングについて」に従ってセッティングしてください。
★ 接続の際は、接続する各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

D-F101シリーズに接続する　『システム接続』

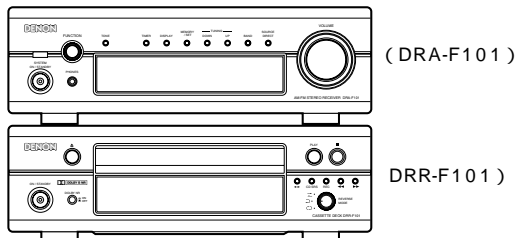
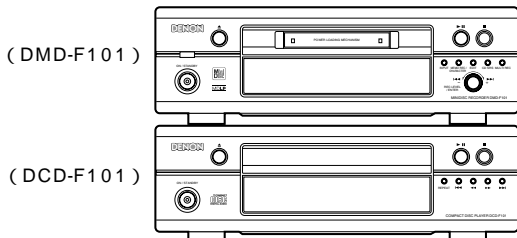
ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないようにしてください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は雑音発生の原因になります。
- ACアウトレットへはオーディオ機器の電源プラグを差し込み、ドライヤーなどオーディオ機器以外の電源としては使用しないでください。CDプレーヤー、カセットデッキ、MDレコーダーなど、このレシーバーに接続された装置の電源プラグを差し込んでおくと便利です。なお、本機のACアウトレットは電源ボタン（ON/STANDBY）と連動して電源がON/OFFされるタイプです。
- 接続コード類と電源コードを一緒に束ねたり、他の電気製品の近くに接続コード類を近づけたりすると、雑音が出る場合があります。
- PHONO入力端子は非常に感度の高い端子です。レコードプレーヤーを接続しないで音量を上げたときに、“ ブーン ” という音がスピーカーから出ることがあります。
- ファンクションつまみ（FUNCTION）で選択されたファンクションの入力端子に機器を接続していない場合、他の入力端子に接続された機器の再生音が漏れることがあります。

接続のしかた（つづき）

■ 推奨システムセッティングについて

◎ D-F101シリーズでのシステムセッティングは性能・安定性を確保するため下記のようにおこなってください。

■ 低待機電力システムセッティングについて

◎ 他のシステム機器の電源コードを本機のACアウトレットから順に接続するとシステム全体での待機電力を1W以下にすることができます。

ご注意

- レシーバー（DRA-F101）の上に他の機器を直接重ねないでください。放熱のため、通風孔をふさがないよう10cm以上離してください。
- 安全性確保のため、機器の積み重ねは3段までにしてください。

（DMD-F101）

（DCD-F101）

（DRA-F101）

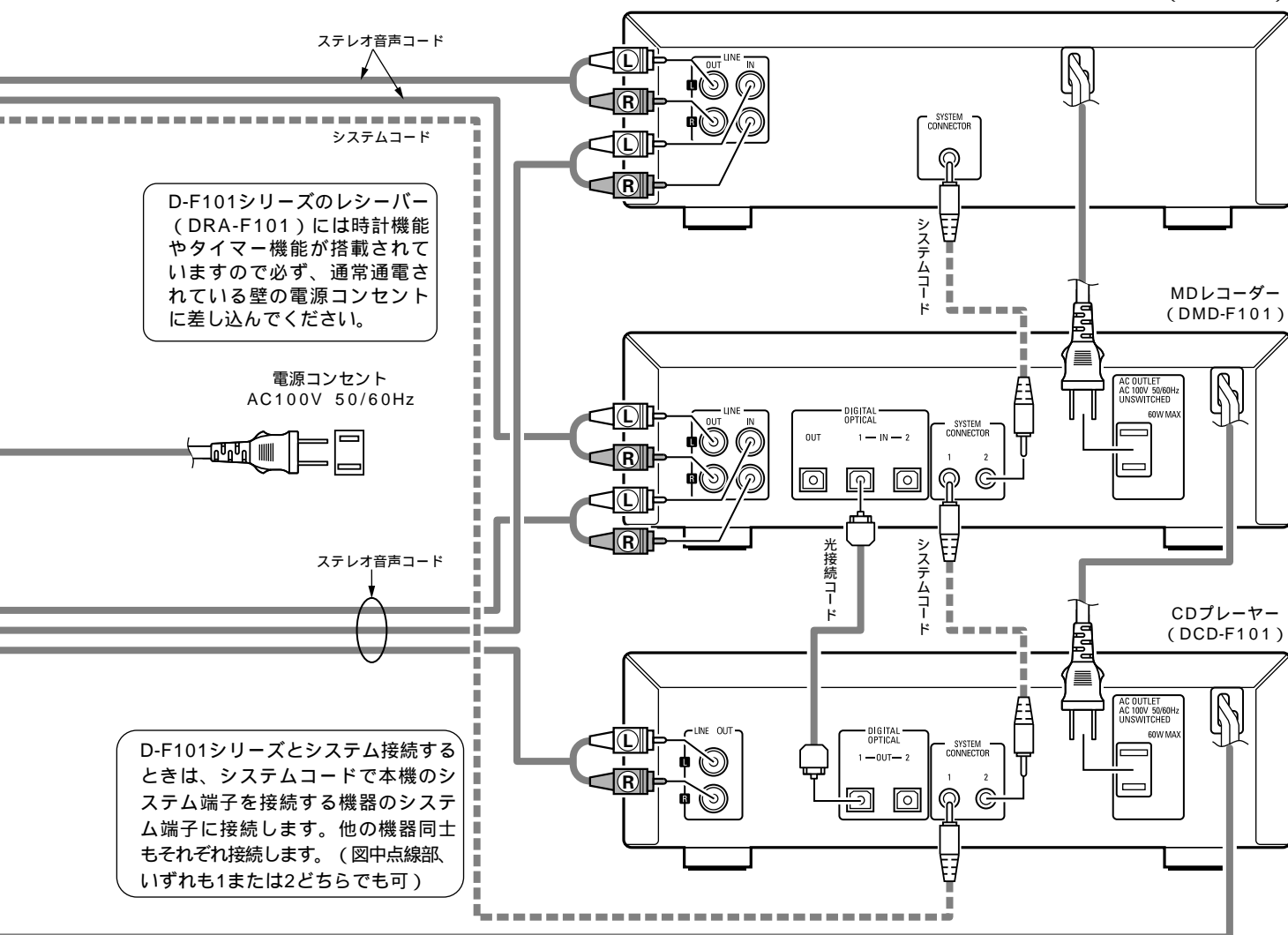
DRR-F101）

★ D-F101シリーズと接続する場合は、下図の通りシステム接続をおこなってください。
★ 本機に各接続コードは付属しておりません。接続コードは、接続する各機器に付属のものをご使用ください。

システム動作について

- 各ユニット間のすべてのステレオ音声コードおよびシステムコードを接続しないとタイマー録音/再生やオートパワーオン機能などのシステム動作がおこなわれませんので、各ユニット間のすべての接続コードを完全に接続してください。
- 動作中にシステムコードなどを抜くと誤動作の原因になりますので、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから接続の変更をおこなってください。

カセットデッキ
（DRR-F101）

ステレオ音声コード

システムコード

- D-F101シリーズのレシーバー（DRA-F101）には時計機能やタイマー機能が搭載されていますので必ず、通常通電されている壁の電源コンセントに差し込んでください。

電源コンセント
AC100V 50/60Hz

MDレコーダー
（DMD-F101）

ステレオ音声コード

CDプレーヤー
（DCD-F101）

光接続コード

システムコード

- D-F101シリーズとシステム接続するときは、システムコードで本機のシステム端子を接続する機器のシステム端子に接続します。他の機器同士もそれぞれ接続します。（図中点線部、いずれも1または2どちらでも可）

LINE OUT IN
SYSTEM CONNECTOR
DIGITAL OPTICAL
AC OUTLET AC 100V 50/60Hz UNSWITCHED 60W MAX

接続のしかた（つづき）

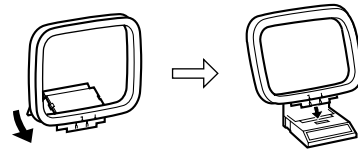
付属のアンテナの接続

1	**FM用屋内アンテナをFMアンテナ端子（FM COAX. 75Ω）に接続します。**
2	**組み立てられたAM用アンテナをAMアンテナ端子（AM LOOP ANT.）に接続します。**

AM用ループアンテナの組み立てかた

付属のAM用ループアンテナを図のように組み立てます。

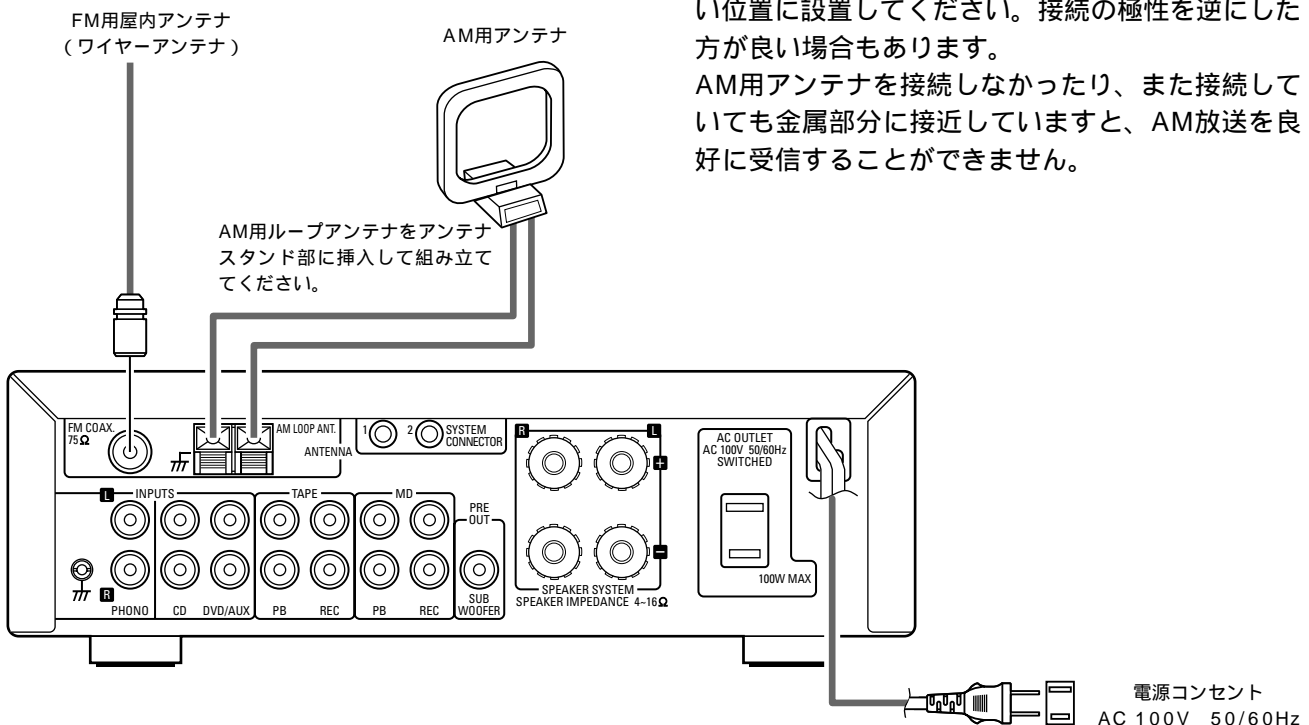
FM用屋内アンテナの設置方法

FM放送を受信（22ページ参照）し、音を聞きながら歪みや雑音の最も少ない位置にアンテナの先端をテープや押しピンなどで固定してください。
付属のFM用屋内アンテナは電波が充分強い場所などでの一時的な受信のためのものです。良好な受信のためにはFM用屋外アンテナを使用した75Ω同軸ケーブルでの接続をおすすめします。
（11ページ参照）

AM用アンテナの接続

付属のAM用アンテナを下図のようにアンテナターミナルに接続してください。

1	**レバーを押します。**	
2	**アンテナ線を端子部に挿入します。**	
3	**レバーを離し、アンテナ線を固定します。**	

AM用アンテナの設置方法

AM放送を受信（22ページ参照）し、音を聞きながら本機からできるだけ離して歪みや雑音の最も少ない位置に設置してください。接続の極性を逆にした方が良い場合もあります。
AM用アンテナを接続しなかったり、また接続していても金属部分に接近していますと、AM放送を良好に受信することができません。

接続のしかた（つづき）

★付属のアンテナで放送がきれいに聞こえないときは、必要な放送用の屋外アンテナを使用してください。

屋外アンテナを立てる場所について

- 放送局の送信アンテナがある方向に立てます。
- ビルや山のかげなどでは、最も良く受信できるところに立てて方向を変えてください。
- 送電線の下には立てないでください。送電線がアンテナに触れると大変危険です。
- 自動車や電車の雑音が入らないよう、道路や線路から離れたところへ立ててください。
- 落雷の恐れがありますので、あまり高いところには立てないでください。

ご注意

- ガス管に接続して大地アースをとるのは大変危険ですのでおやめください。
- 本機のアンテナターミナルのアース端子（ ⏚ ）はAMアンテナ用アースで安全アースではありません。
- FM用アンテナアダプターは、本機のアンテナ端子に合ったものを使用してください。
- 75Ω同軸ケーブルおよび300Ωフィーダー線のFMアンテナアダプターへの接続は、FM用アンテナアダプターの取扱説明書に従ってください。

FM用屋外アンテナの接続

1 **FM用屋外アンテナを75Ω同軸ケーブルまたは300Ωフィーダー線に市販のFM用アンテナアダプターを使用して接続します。**

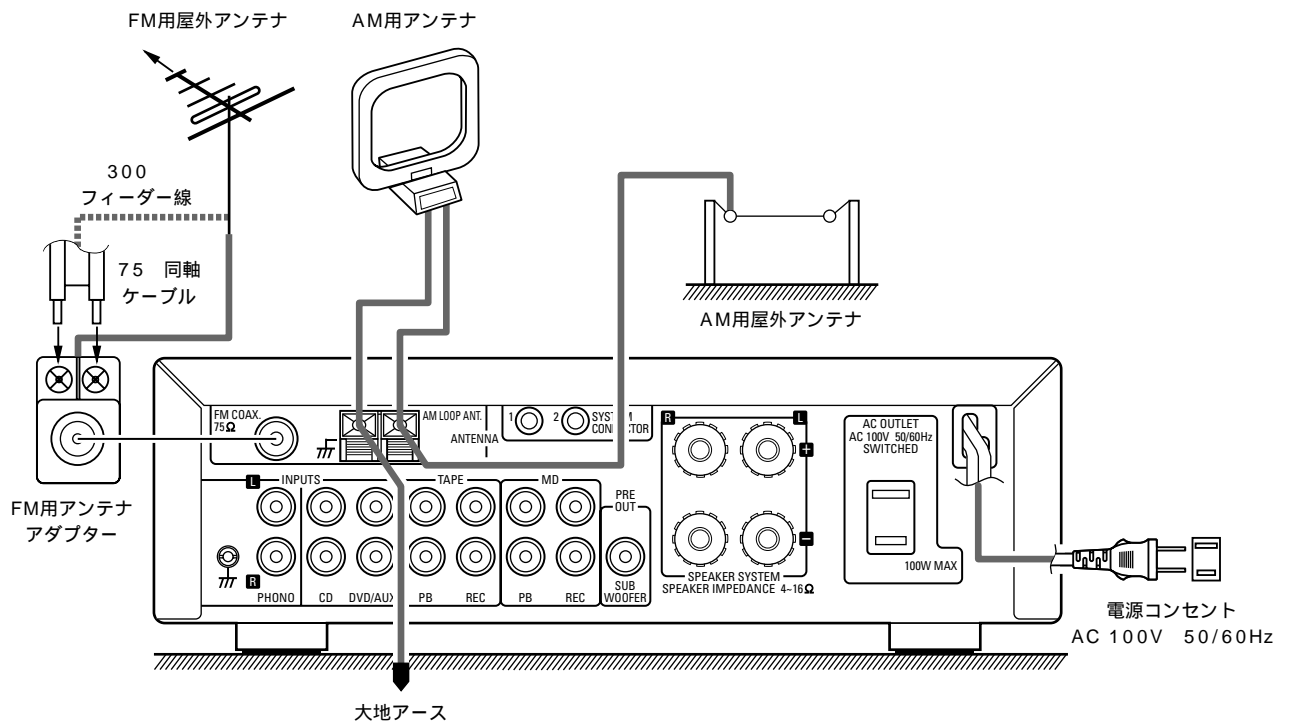
- 他の機器からの受信妨害を防止するため、75Ω同軸ケーブルの接続をおすすめします。

2 **本機のFM用アンテナ端子（FM COAX. 75Ω）に接続します。**

- 75Ω同軸ケーブルまたは300Ωフィーダー線どちらか1本だけを接続してください。
- 付属のFM用屋内アンテナは外してください。

AM用屋外アンテナの接続

3 **AM用屋外アンテナの信号線をAMアンテナ端子（AM LOOP ANT.）に接続します。**

- 必ず大地アースをとり、アース端子（ ⏚ ）に接続してください。
- 付属のAM用アンテナは、必ず接続しておいてください。

スピーカーシステムの接続

■ スピーカーのインピーダンスについて

- スピーカーシステムは、インピーダンスが4〜16Ωのものを使用してください。
- 上記のインピーダンス以外のスピーカーを使用した場合、保護回路が動作することがあります。

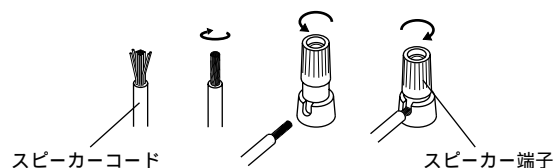
保護回路について

本機には高速プロテクター回路が内蔵されています。これはパワーアンプの出力が誤って短絡された際に、大電流が流れたりした場合や周囲の温度異常などが発生した場合にスピーカーを保護するためのものです。
保護回路が動作するとスタンバイ状態になり、電源表示インジケーターが橙色の速い点滅になります。このような場合は、必ず本機の電源プラグをコンセントから抜き、スピーカーコードや入力コードの配線に異常がないかを確認の上、本機の温度が極端に上がっている場合は、本機が冷えるのを待って周囲の通風状態を良くしてからもう一度電源を入れ直してください。
配線や本機の周囲の通風に問題がないにも関わらず、保護回路が動作してしまう場合は、本機が故障していることも考えられますので、本機の電源プラグをコンセントから抜いた上で弊社の修理相談窓口にご連絡ください。

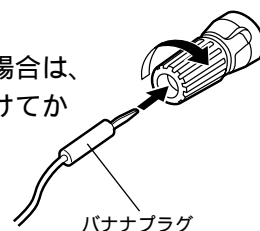
ご注意

- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。

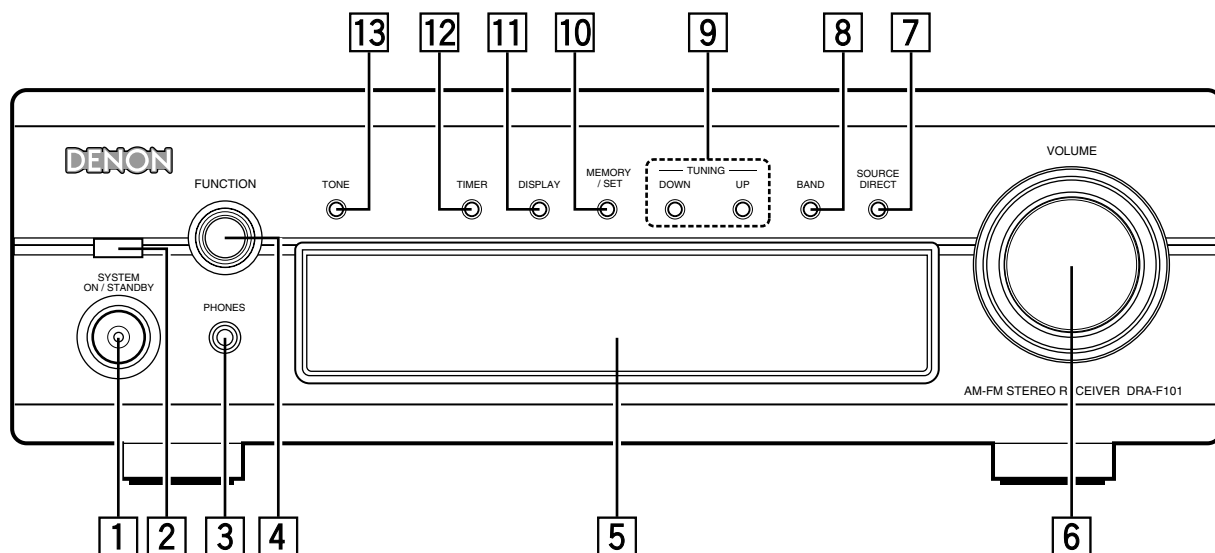
■ スピーカーコードの接続

①コードの端の被覆をむきます。
②芯線をよじります。
③スピーカー端子を左に回してゆるめます。
④コードの芯線部分を全部差し込み、右に回して端子を締めます。

■ バナナプラグの接続

バナナプラグを使用する場合は、右に回して端子を締め付けてから挿入してください。

バナナプラグ

◎スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性（⊕と⊕、⊖と⊖）を接続してください。極性を間違えて接続すると中央の音が抜けたようになり、楽器の定位がはっきりせずステレオの方向感が損なわれます。
◎接続の際、スピーカーコードの芯線が端子からはみだして他の端子に接触しないようにしてください。また、スピーカーコードの芯線どうし、および芯線がリアパネルに接触しないようにご注意ください。

6 各部の名前とはたらき

(1) フロントパネル

1 電源ボタン（SYSTEM ON/STANDBY）

- 押すと電源が入り、もう一度押すと、電源がスタンバイ状態になります。（通電状態）
- インジケーターの色は、状態によって次のように変わります。

電源ON時：緑色
スタンバイ時：赤色
タイマースタンバイ時：オレンジ色

※本体またはリモコンの電源ボタンを『ON』にすると数秒間のミューティング状態があります。このミューティング状態のときには緑色点滅をおこない、本機が動作中になると緑色に点灯します。

※**橙色点滅（速い点滅）**：
本機の保護回路が動作している状態。
このときは本機の電源プラグをコンセントから抜き、リアパネルの入出力端子を確認してください。特にスピーカーコードのショートがないかを確かめ、正しく接続した後で電源を入れてください。

- D-F101シリーズとシステム接続をしているときはシステムの電源ボタンとしてはたらき、本機の電源がONになるのと同時に、接続しているシステムユニットの電源もONになります。

※スタンバイ状態でも本機は通電状態（低待機電力モード）にあります。

2 リモコン受光部

- 付属のリモコン（RC-927）をこの受光部に向けて操作してください。

3 ヘッドホンジャック（PHONES）

- ヘッドホン（別売り）でお楽しみいただくときに使用します。
- ヘッドホンを使用する場合は、ヘッドホンプラグを差し込みます。ヘッドホンプラグを差し込むとスピーカーの音は自動的に切れます。

4 ファンクションつまみ（FUNCTION）

- 入力ファンクションを切り替えます。
また、トーンボタンで選択した各モードの設定をするときに使用します。
（20、21ページ参照）

5 ディスプレイ

- 16ページを参照してください。

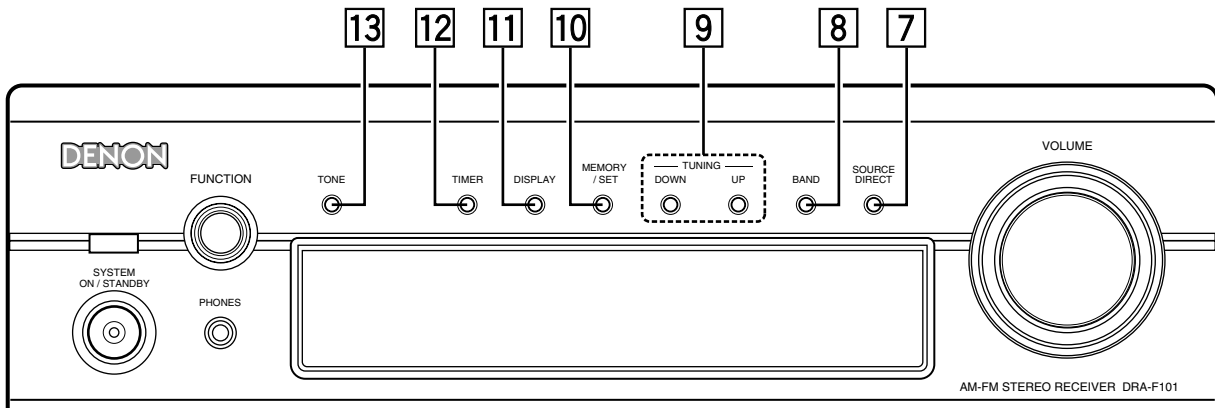
6 音量調節つまみ（VOLUME）

- 音量を調節するときに使用します。
- ↻方向に回すと音量が大きくなり、↺方向に回すと音量が小さくなります。
- つまみを回すと、ディスプレイに“ VOLUME 00 ”（最小）から“ MAX ”（最大）まで音量レベルが表示され、63ステップで音量が変化します。（電子コントロール式）

ご注意

- 電子コントロール式の音量調節のため、つまみの操作は音量レベルの表示を確認しながらゆっくりと回転させてください。

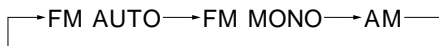
（次ページにつづきます）

各部の名前とはたらき（つづき）

7 ソースダイレクトボタン（SOURCE DIRECT）

- 押して『ON』にすると信号は音質調整（低音、高音、バランス、ラウドネス）回路を標準状態にします。
- もう一度押して『OFF』にすると信号は音質調整回路を通りますので、お好みの音質に低音、高音、バランス、ラウドネスが調節できます。

8 バンドボタン（BAND）

- ボタンを押すたびに、受信バンドとモードが次のように切り替わります。

→FM AUTO→FM MONO→AM→

9 チューニングボタン（TUNING UP/DOWN）

- FM/AM放送局を選局するときに押します。
（22ページ参照）

10 メモリー/セットボタン（MEMORY/SET）

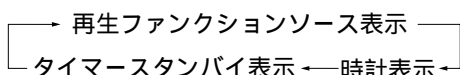
- FM/AMの放送局をプリセットするときのメモリーボタンとして使用します。
- 時刻やタイマーを設定するときは、入力を確定するセットボタンとして動作します。

11 ディスプレイボタン（DISPLAY）

- 時計表示とファンクション表示を切り替えます。

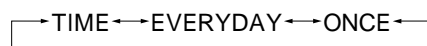
12 タイマーボタン（TIMER）

- 時計やタイマーの確認/設定をするときに押します。
- ボタンを押すたびに、ディスプレイの表示が次のように切り替わります。

→再生ファンクションソース表示→時計表示→タイマースタンバイ表示→

時計表示：時刻表示をします。
次の操作をするまでは、時計表示に固定されます。

タイマースタンバイ表示：
タイマースタンバイ設定状態を表示し、表示中にチューニングボタンでタイマー動作のON/OFFを設定することができます。
（28ページ参照）
5秒以上操作しないと、再生ファンクションソース表示に戻ります。

- 3秒以上押し続けると、時計/タイマーの設定モードになります。
  - 時刻が設定されていないときや停電があった場合は、“ TIME ” が点滅表示します。
  - 時刻が設定されている場合は、“ EVERYDAY ” が点滅表示します。
  - “ TIME ” または “ EVERYDAY ” が点滅表示中にチューニングボタンを押すと、設定モードが次のように切り替わります。

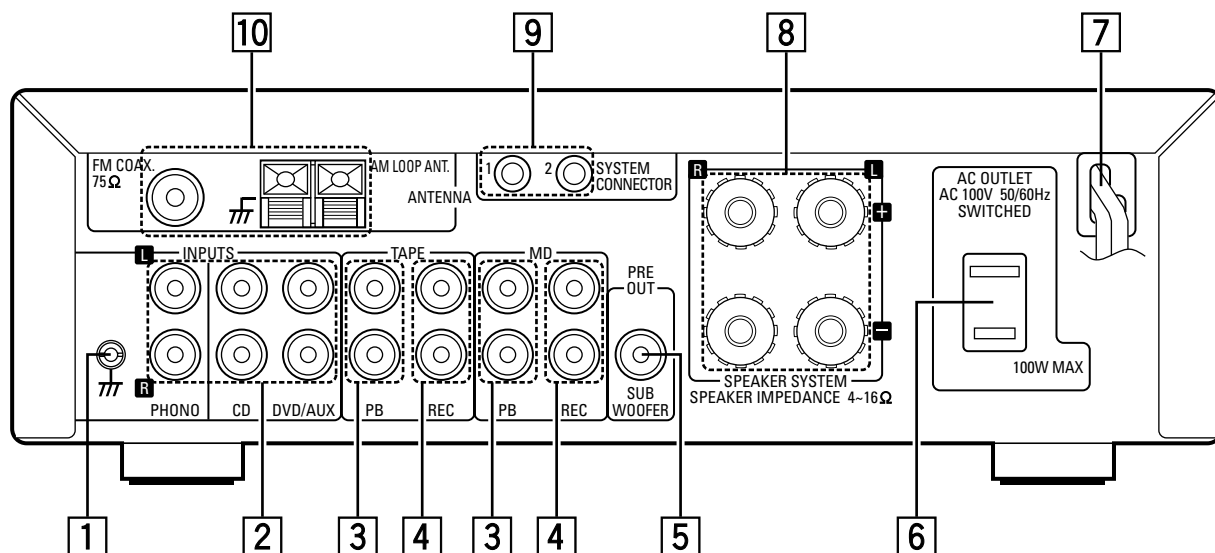
→TIME↔EVERYDAY↔ONCE←

TIME：時刻設定モード
EVERYDAY：エブリデイタイマー設定モード
ONCE：ワンスタイマー設定モード
設定するモードを選択して、メモリー/セットボタンを押すと、各設定ができます。
（設定のしかたは、25～30ページ参照）

- 電源スタンバイ状態でタイマーボタンを押すと、時計表示をおこないますが、低待機電力モードではなくなります。（本機のACアウトレットがONになります。）
もう一度押すと、タイマースタンバイ表示をした後、ディスプレイが消えて、低待機電力モードに戻ります。（本機のACアウトレットもOFFになります。）

13 トーンボタン（TONE）

- 低音、高音、バランスの設定をおこなうときに押します。（20、21ページ参照）
- ラウドネスのON/OFFを設定するときに押します。（20ページ参照）

各部の名前とはたらき（つづき）

（2）リアパネル

1 アース端子

- レコードプレーヤーのアース線を接続する端子です。

ご注意

- この端子はレコードプレーヤーなどを接続した場合に、雑音の低減をはかるためのものです。安全アースではありません。

2 入力端子（INPUTS）

PHONO ：レコードプレーヤーを接続します。レコードプレーヤーのカートリッジは『MM』を使用してください。
CD ：CDプレーヤーを接続します。
DVD/AUX：DVD、ビデオデッキなどの外部機器を接続します。

3 再生端子（PB）

TAPE：カセットデッキの出力端子（LINE OUT）に接続します。
MD ：MDレコーダーの出力端子（LINE OUT）に接続します。

4 出力端子（REC）

- 録音用の出力端子です。

TAPE：カセットデッキの入力端子（LINE IN）に接続します。
MD ：MDレコーダーの入力端子（LINE IN）に接続します。

5 プリアウト端子（PRE OUT）

- アンプ内蔵のサブウーハーやプリメインアンプなどの入力端子に接続します。

6 ACアウトレット（AC OUTLET）

- 他のオーディオ機器の電源プラグを差し込みます。
- オーディオ機器専用です。
- D-F101シリーズとシステム接続する際は、CDプレーヤー（DCD-F101)、カセットデッキ（DRR-F101)、またはMDレコーダー（DMD-F101）のいずれかの機器の電源プラグを接続してください。
- 電源ボタン（ON/STANDBY）と連動し、電源をON/OFFします。

ご注意

- 接続する機器の合計消費電力は、100Wまでです。それ以上の機器は接続しないでください。

7 電源コード

- 壁の電源コンセントなどに差し込んでください。

8 スピーカー端子（SPEAKER SYSTEMS）

- スピーカーを接続します。（8、12ページ参照）

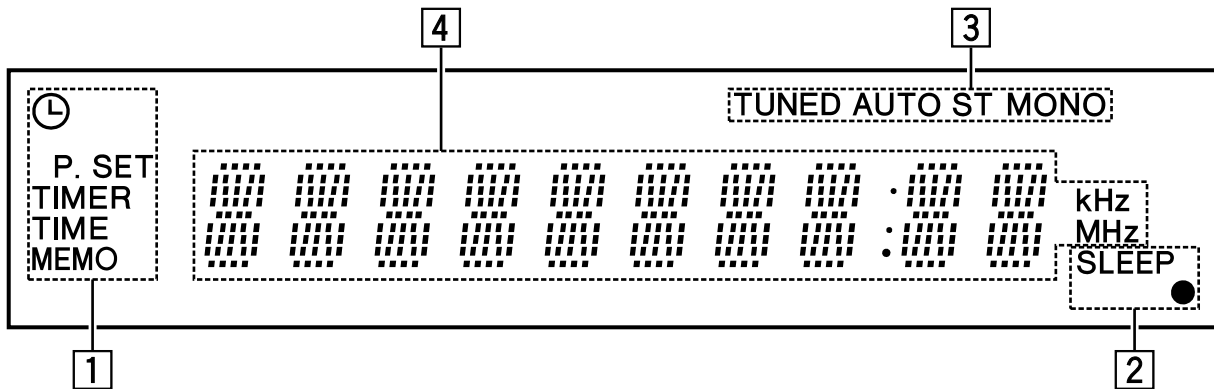
9 システム端子（SYSTEM CONNECTOR 1, 2）

- D-F101シリーズとシステム接続するときに、他機器のシステム端子と接続します。（接続の際は、他の機器に付属のシステムコードを使用してください。）

10 アンテナ端子（ANTENNA AM/FM）

- アンテナを接続します。（10、11ページ参照）

各部の名前とはたらき（つづき）

(3) ディスプレイ

1 各種モード表示部

- タイマー、チューナーの各種モードの状態を表示します。

◷：
　タイマーがスタンバイ状態のときに点灯します。
　現在時刻およびタイマーが未設定のときは点灯しません。

P. SET：
　チューナーのプリセット番号を表示するときに点灯します。

TIMER：
　タイマーが設定されているときに点灯します。
　タイマー設定時間の入力中にも点灯します。

TIME：
　時刻表示のときに点灯します。

MEMO：
　FM/AMの放送局をプリセットメモリーするときに点滅して、メモリー可能な状態であることを知らせます。

2 各種モード表示部

- 各種モードの状態を表示します。

SLEEP：
　スリープタイマーの動作中に点灯します。

●：
　リモコン信号を受信したときに点灯します。

3 各種モード表示部

- チューナーの各種モードの状態を表示します。

TUNED：
　正しく同調したときに点灯します。

AUTO：
　FM AUTOモードにしたときに点灯します。

ST：
　FM AUTOモードにおいて、ステレオ放送を受信しているときに点灯します。

MONO：
　FM AUTOモードにおいて、モノラル放送を受信しているときおよびFM MONOモードにしたときに点灯します。

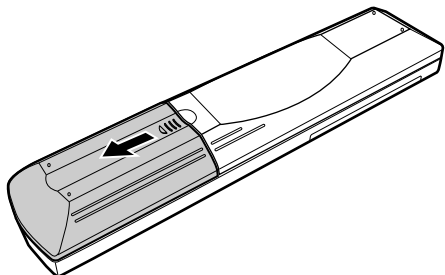
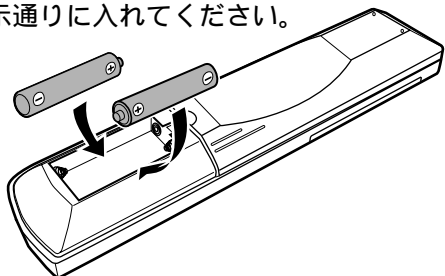
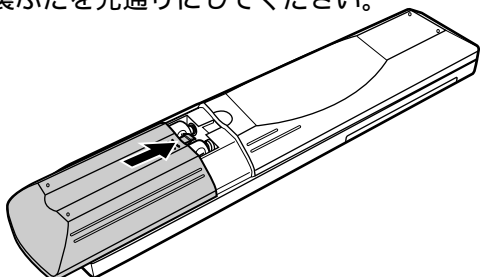
4 メイン表示部

- 各種ファンクション（機能）、入力プログラムソースなどを表示します。
- 通常動作時は入力プログラムソースを表示します。
- ディスプレイボタンを押すと時計表示とファンクション表示を切り替えます。
- 各機能を示す表示に切り替わります。
- 受信バンド、受信周波数、時計およびタイマーの設定時刻などを表示します。

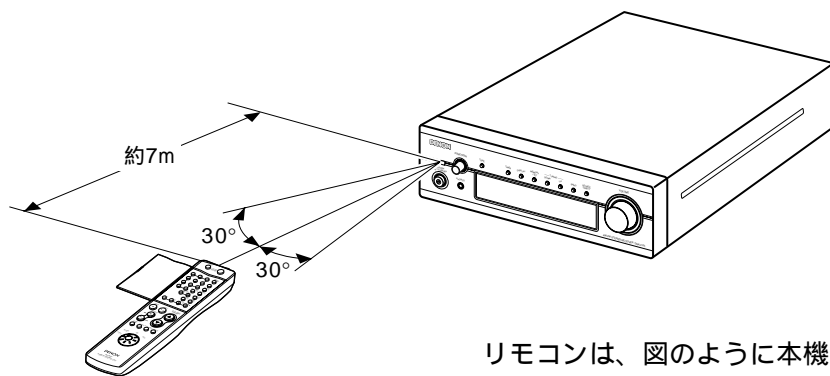
7 システムリモコンについて

★ 付属のシステムリモコン（RC-927）は、D-F101シリーズとシステム接続している各々のシステムユニットの主な操作をおこなうことができます。それ以外の機器を接続してもこのリモコンによる操作はできません。なお、システムリモコンでは操作できない機能もありますので、その場合は各ユニットに付属のリモコンを使用してください。

(1) 乾電池の入れかた

① リモコンの裏ぶたを外してください。

② 単4形乾電池（2本）をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。

③ 裏ぶたを元通りにしてください。

乾電池についてのご注意

- リモコンには単4形乾電池をご使用ください。
- リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。
- 1年経っていなくても、リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに、⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱、または火に投入したりしないでください。
- リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- 乾電池を交換するときは予め交換用の乾電池を用意し、できるだけ速やかに交換してください。

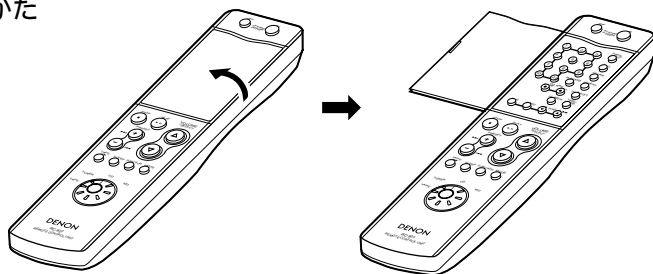
(2) リモコンの使いかた

ご注意

- リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていたり、リモコン受光部との間に障害物があるとリモコンが動作しにくくなります。
- 本機とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因になります。

- リモコンは、図のように本機のリモコン受光部に向けて使用してください。（システム接続のときは、すべての機器のリモコン信号は本機のリモコン受光部で受信します。）
- 直線距離では約7m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。
- リモコン受光部を基準にして左右約30°までの範囲で操作できます。

システムリモコンについて（つづき）

(3）リモコンボタンの名前とはたらき

■ リモコンカバーの開けかた

電源スタンバイボタン（SYSTEM POWER STANDBY）

本機の電源をスタンバイ状態にするときに押します。
（D-F101シリーズとシステム接続されているときは、システム全体の電源がスタンバイ状態になります。）

テンキーボタン（1〜10）＋10ボタン（＋10）

- 本機でチューナーの操作をするときはリモコンファンクション切り替えスイッチを『TUNER』に切り替えてください。

バンドボタン（BAND）

チューニングボタン（▲,▼）

プリセットボタン（PRESET）

スリープタイマーボタン（SLEEP）

ファンクションボタン（FUNCTION）

再生するファンクションソースを選択するときに押します。
このボタンを押すたびに、ファンクションが下記のように切り替わります。

→ CD → TUNER → DVD/AUX →
MD ← TAPE ← PHONO ←

電源オンボタン（SYSTEM POWER ON）

本機がスタンバイ状態のときに押すと、本機の電源がONになります。
（D-F101シリーズとシステム接続されているときは、システム全体の電源がONになります。）

ディマーボタン（DIMMER）

押すたびにディスプレイの明るさが暗くなっていきます。
（4段階）
部屋の明るさに合わせて、ディスプレイの明るさを調節してください。

ボリウム/セレクトボタン（VOLUME/SELECT）

- △を押すと音量が上がり、▽を押すと音量が下がります。
- 各種モード設定をおこなうときに使用します。

モードボタン（MODE）

リモコンファンクション切り替えスイッチ

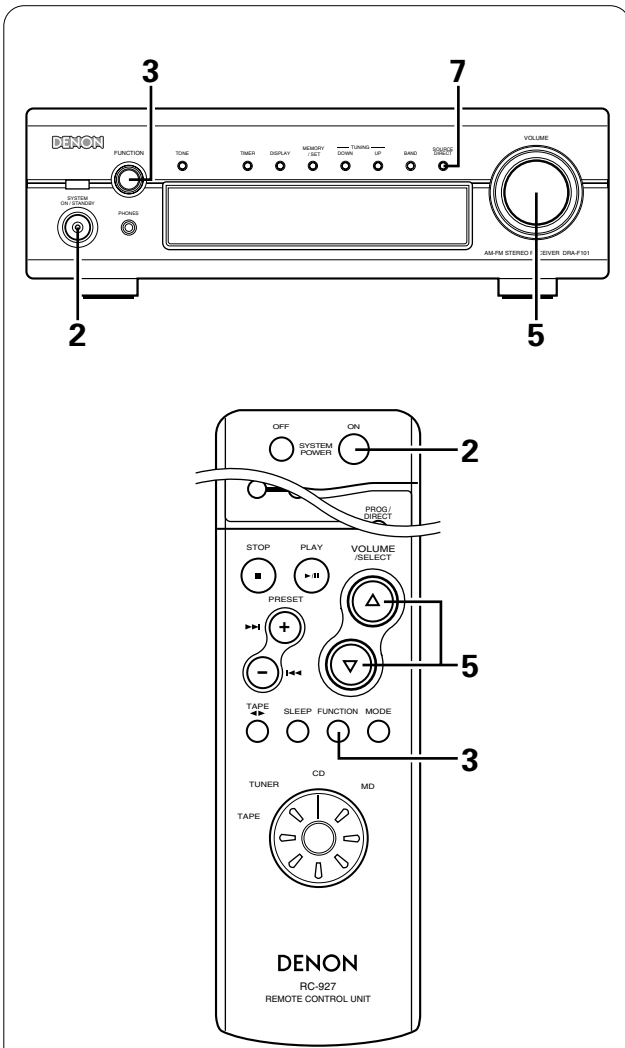
本リモコンで操作するファンクションを選びます。本機のチューナー機能を操作するときは『TUNER』を選びます。操作方法はD-F101シリーズ各機器の取扱説明書をご覧ください。

※**上記で説明していないボタンは、DRA-F101で操作できません。**

[システムリモコン対応機種]

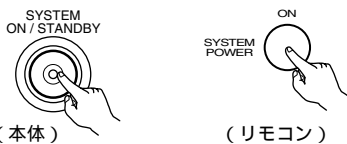
- レシーバー··········DRA-F101(本機)
- CDプレーヤー ······DCD-F101
- カセットデッキ······DRR-F101
- MDレコーダー ······DMD-F101

8 操作のしかた

（1）再生のしかた

1 **接続に間違いがないことを確認してください。**

2 **電源を入れます。**

● インジケーターが緑色に点滅した後、緑色に点灯します。

（本体）　（リモコン）

■ 電源ON/STANDBYとファンクションメモリーについて

◎スタンバイ状態から本機の電源をONにしたときのファンクションは、前回スタンバイにしたとき選択していたファンクションになります。（ラストファンクション機能）

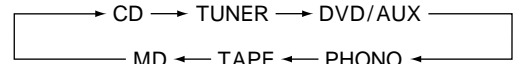
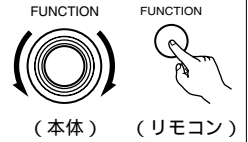
※静電気などのショックによりメモリーが消去された場合は、本機の電源をONにしたときのファンクションは『CD』になります。

3 **本体のファンクションつまみを回すか、リモコンのファンクションボタンを押して再生したいファンクションソースを選択します。**

● ファンクションは下記のように切り替わります。

※つまみを左（↺）に回したときは逆の順番になります。

（本体）　（リモコン）

→ CD → TUNER → DVD/AUX → PHONO → TAPE → MD →

◎ **CD**：
CD端子に接続したCDプレーヤーを再生するときに選択します。

◎ **TUNER**：
ラジオ放送を聞くときに選択します。

◎ **DVD/AUX**：
DVD/AUX端子に接続した機器を再生するときに選択します。

◎ **PHONO**：
PHONO端子に接続したレコードプレーヤーを再生するときに選択します。

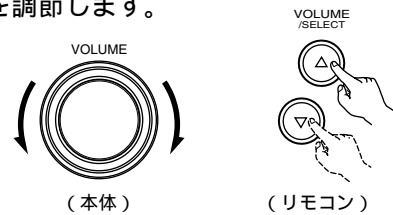
◎ **TAPE**：
TAPE端子に接続したカセットデッキを再生するときに選択します。

◎ **MD**：
MD端子に接続したMDレコーダーを再生するときに選択します。

4 **選択したファンクションソースの再生をはじめます。**

● 操作のしかたは、再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

5 **音量を調節します。**

（本体）　（リモコン）

6 **低音、高音、ラウドネス、バランスを調節します。**

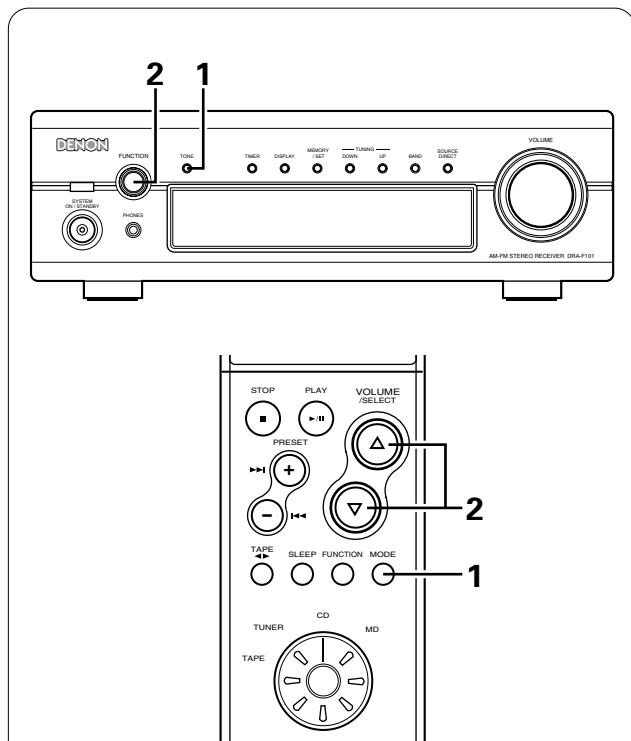
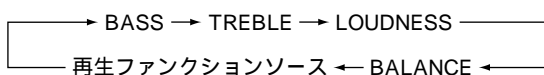
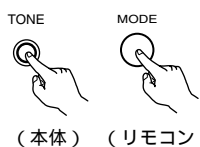
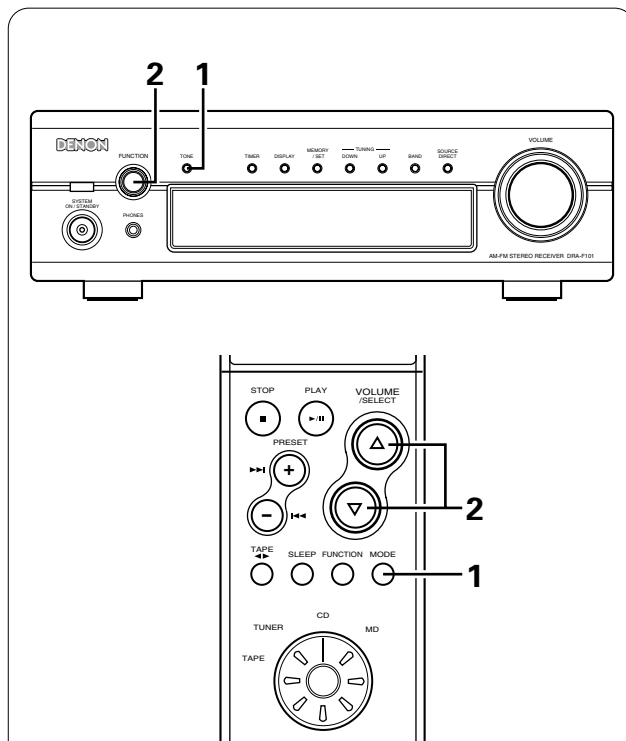
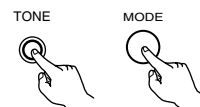
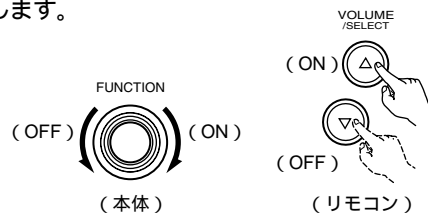
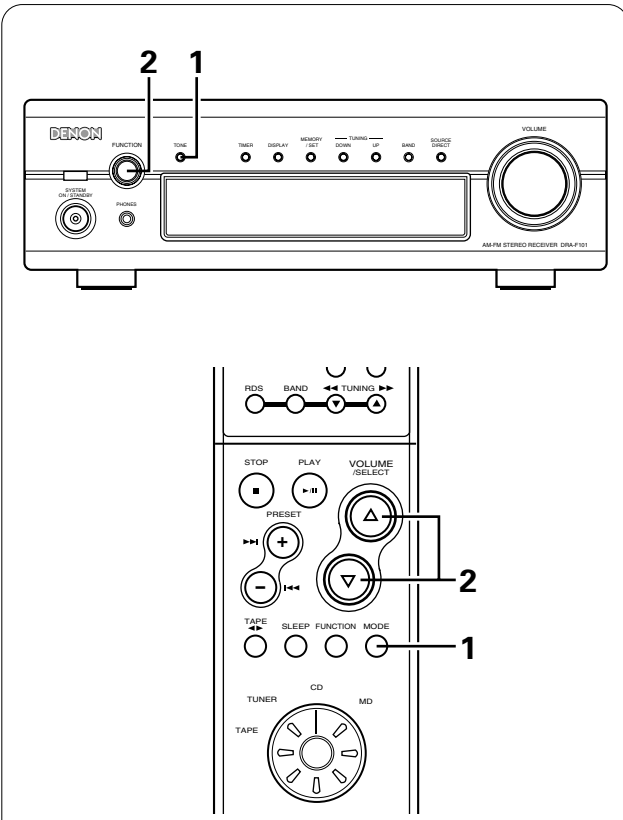
※調節のしかたは20、21ページの「（2）各モードの設定のしかた」を参照してください。

7 **[ソースダイレクトにてお楽しみいただく場合]**

ソースダイレクトボタンを押して『ON』にします。

（本体）

（2）各モードの設定のしかた

1 低音、高音の調節のしかた

1	**本体のトーンボタンまたはリモコンのモードボタンを押して、調節したいモード｛BASS（低音）またはTREBLE（高音)｝を表示させます。** ● ボタンを押すたびに下記のように切り替わります。 （本体）（リモコン） → BASS → TREBLE → LOUDNESS → 再生ファンクションソース → BALANCE → ※ ソースダイレクトが『ON』に設定されているときは選択できません。
2	**本体のファンクションつまみを回すか、リモコンのセレクトボタンを押して調節します。** ● 低音または高音を増強したいとき： つまみを右（↻）に回すか、△ボタンを押します。 低音または高音を減少させたいとき： つまみを左（↺）に回すか、▽ボタンを押します。 ● 調節範囲は－8～0～＋8で、2ステップずつ調節できます。0のときフラットになります。

2 ラウドネスの設定のしかた

1	**本体のトーンボタンまたはリモコンのモードボタンを押して、“ LOUDNESS ” を表示させます。** ● ボタンを押すたびに左記のように切り替わります。 ※ ソースダイレクトが『ON』に設定されているときは選択できません。 TONE MODE （本体）（リモコン）
2	**本体のファンクションつまみを回すか、リモコンのセレクトボタンを押して『ON』または『OFF』を選択します。** ● ディスプレイに “ ON ” または “ OFF ” 表示が点灯します。 VOLUME /SELECT （ON） FUNCTION （OFF） （ON） （OFF） （本体）（リモコン） ●『ON』にしたいとき： つまみを右（↻）に回すか、△ボタンを押します。 『OFF』にしたいとき： つまみを左（↺）に回すか、▽ボタンを押します。

3 バランスの調節のしかた

1 **本体のトーンボタンまたはリモコンのモードボタンを押して、“ BALANCE ” を表示させます。**

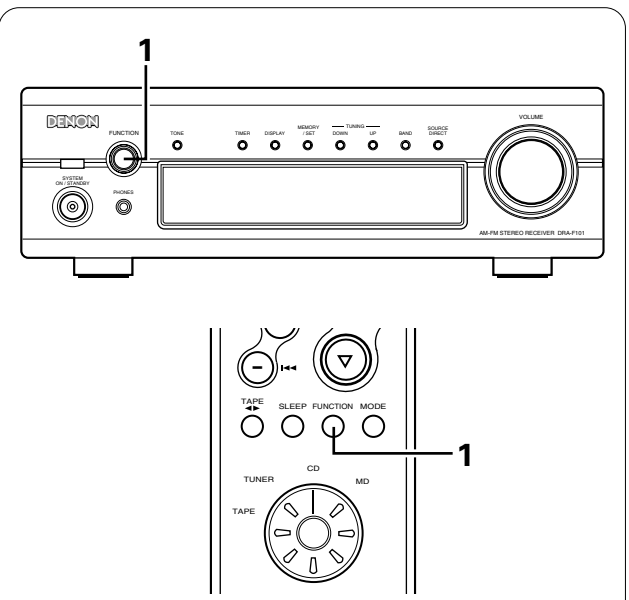
● モードの切り替わりは20ページを参照してください。

※ ソースダイレクトが『ON』に設定されているときは選択できません。

2 **本体のファンクションつまみを回すか、リモコンのセレクトボタンを押してスピーカーの左右のバランスを調節します。**

● 右側のスピーカーの音量が小さいとき：
　つまみを右（↻）に回すか、△ボタンを押します。
　左側のスピーカーの音量が小さいとき：
　つまみを左（↺）に回すか、▽ボタンを押します。

● 調節範囲はCENTER、＋L1～＋L10、＋R1～＋R10で、1ステップずつ調節できます。CENTERのとき左右のスピーカーの音量の差は0です。

(3) 録音のしかた

1 **本体のファンクションつまみを回すか、リモコンのファンクションボタンを押して録音したいファンクションソースを選択します。**

● ファンクションは下記のように切り替わります。

※ つまみを左（↺）に回したときは逆の順番になります。

◎ **CD**：CDの音を録音するときに選択します。
◎ **TUNER**：
　チューナーの音を録音するときに選択します。
◎ **DVD/AUX**：
　DVD/AUX端子に接続した機器の音を録音するときに選択します。
◎ **PHONO**：
　レコードの音を録音するときに選択します。
◎ **TAPE**：
　TAPE端子に接続した機器の音を録音するときに選択します。
◎ **MD**：
　MD端子に接続した機器を録音するときに選択します。

2 **カセットデッキまたはMDレコーダーを録音状態にします。**

● 操作のしかたは、録音する機器の取扱説明書をご覧ください。

3 **選択したファンクションソースの再生をはじめます。**

● 操作のしかたは、再生する機器の取扱説明書をご覧ください。

※ 音量、低音、高音、ラウドネス、バランスを調節しても録音している音には影響ありません。
※ 録音したいファンクションソースが『MD』のときは『TAPE』、『TAPE』のときは『MD』への録音になります。

9 ラジオ放送の聞きかた

(1) 選局のしかた

1	**電源を入れます。** ● インジケーターが緑色に点滅した後、緑色に点灯します。
2	**バンドボタンを押して、『FM AUTO』、『FM MONO』または『AM』を選びます。**
3	**チューニングボタンを1秒以上押し続けます。** ● 受信周波数が変化し、放送を受信すると自動的に停止します。（**オートチューニング**） ※ **システムリモコンで操作をおこなう場合**は、リモコンのファンクション切り替えスイッチを『TUNER』に合わせてからおこなってください。
4	**聞きたい放送局が受信されるまで操作3をくり返します。**

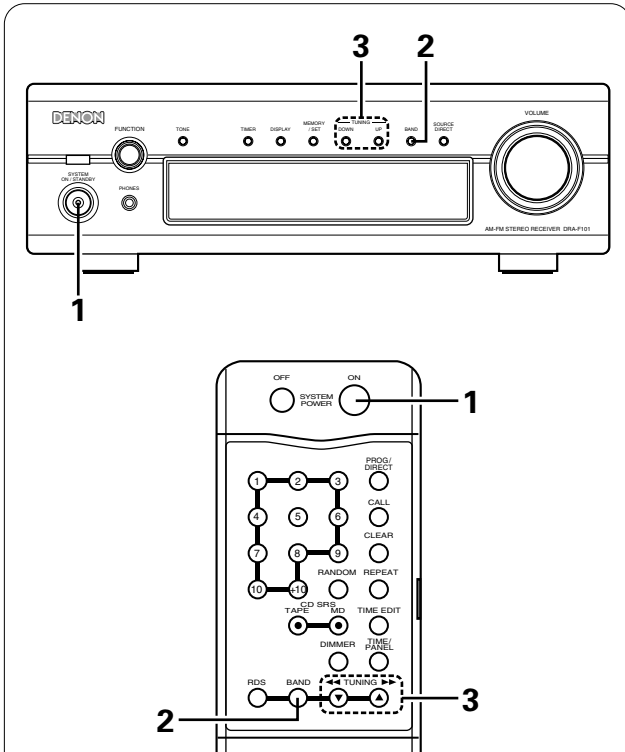
（本体）

（リモコン）

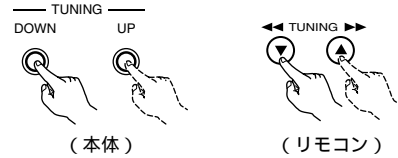
（本体）（リモコン）

（本体）

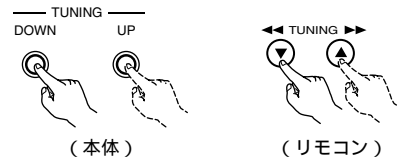
（リモコン）

（リモコン）

【オートチューニングについて】

※ アンテナ入力レベルが弱い（“ TUNED ” 表示が点灯しない）場合は、自動的に停止しません。
※ **オートチューニングを止めるとき**は、チューニングボタンを1回（0.5秒以下）押してください。

（本体）（リモコン）

【マニュアルチューニングについて】

※ チューニングモードではチューニングボタンを1回（0.5秒以下）押すたびに、受信周波数がFM放送では0.1MHz、AM放送では9kHzずつ変化します。

（本体）（リモコン）

FMステレオ受信について

● 受信モードが『AUTO』のときにステレオ放送を受信すると、“ ST ” 表示が点灯してステレオ受信になります。
● アンテナ入力レベルが低く、ステレオ受信が困難なときは、受信モードを『MONO』にしてモノラル受信にすると聞きやすくなります。受信モードは、最後に設定した状態を保持します。

ご注意

AM放送受信中に近くでテレビなどを使用すると、“ ピー ” という雑音が入る場合があります。
このような場合は、本機をテレビなどからできるだけ離して設置してください。

（2）FM/AM放送のプリセットのしかた

【例】 選局した放送局をプリセット番号『3』にプリセットするとき

1 **メモリー/セットボタンを押します。**

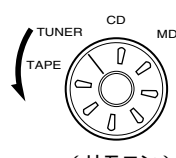
MEMORY / SET

- ボタンを押す前のプリセット番号の表示により、プリセット番号部が下記のように点滅し、設定待ちの状態になります。

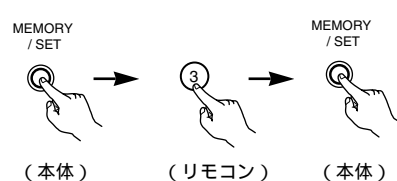
“ 01 ”〜“ 10 ”または“ 0ー ”のとき：“ 0ー ”が点滅
“ 11 ”〜“ 20 ”または“ 1ー ”のとき：“ 1ー ”が点滅
“ 21 ”〜“ 30 ”または“ 2ー ”のとき：“ 2ー ”が点滅
“ 31 ”〜“ 40 ”または“ 3ー ”のとき：“ 3ー ”が点滅

2 **“ MEMO ” 表示が点滅している間に、チューニングUPボタンを押して、“ P.SET ” 表示と “ 03 ” を表示させます。**

TUNING
DOWN　UP

※ **他のプリセット番号にプリセットする場合**は、チューニングボタンで希望するプリセット番号に設定してください。

3 **“ MEMO ” 表示が点滅している間に、もう一度メモリー/セットボタンを押します。**

MEMORY / SET

- “ MEMO ” 表示が消灯して、プリセットが完了します。

※ 同じように操作して、FM/AMを合わせて40局までプリセットすることができます。

※ **システムリモコンで操作をおこなう場合**は、リモコンのファンクション切り替えスイッチを『TUNER』に合わせてからおこなってください。

TUNER　CD　MD　TAPE
（リモコン）

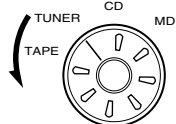
［操作手順］

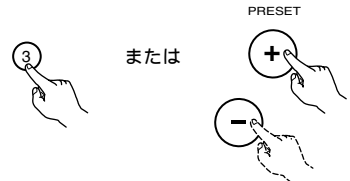
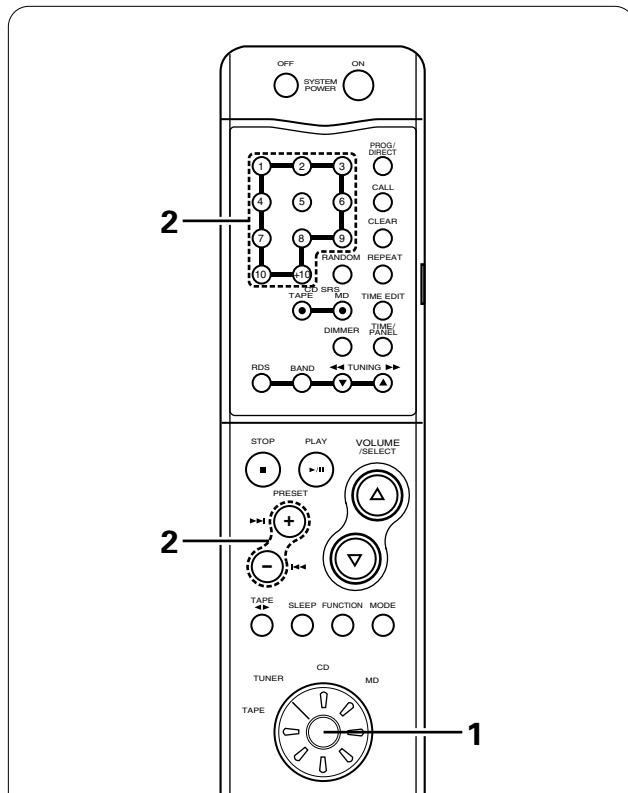
MEMORY / SET → 3 → MEMORY / SET
（本体）　（リモコン）　（本体）

- ③ のかわりに ◀◀ TUNING ▶▶ ▼ ▲ を押しても設定できます。
- **他のプリセット番号にプリセットする場合**は、システムリモコンのテンキーまたは＋10ボタンを押して、希望するプリセット番号に設定してください。

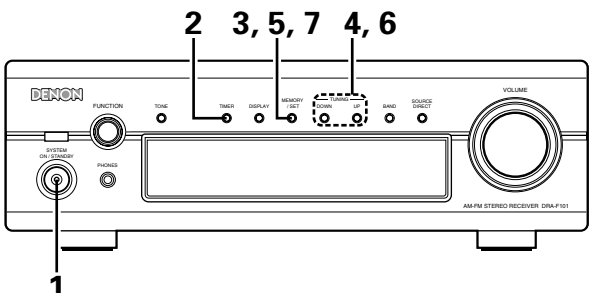
【例】 **12**にプリセットするとき：+10、②
29にプリセットするとき：+10、+10、⑨
と押してください。

プリセットについて

- プリセット時には、受信周波数の他に受信モードも同時にプリセットされます。
- すでにプリセットされている番号にプリセットすると、前のメモリーを消去して新しい放送局をプリセットします。
- 電源コードを抜いたり停電などで一時的に電源が切れても、保持されます。

ラジオ放送の聞きかた（つづき）

(3) プリセットされた放送の聞きかた　（リモコンのみ）

【例】 プリセット番号『3』にプリセットされた放送を聞くとき

1 **ファンクション切り替えスイッチを『TUNER』に合わせます。**

2 **テンキー3またはプリセットボタンを押して“ P.SET 03 ”を表示させます。**

※**他のプリセット番号を呼び出す場合**は、テンキーまたは＋10ボタンを押して、希望するプリセット番号を呼び出してください。

【例】 **12**を呼び出すとき：(+10)、(2)

29を呼び出すとき：(+10)、(+10)、(9)

と押してください。

10 タイマーの使いかた

（1）現在時刻の合わせかた（24時間表示）

【例】 現在時刻を『19時30分（午後7時30分）』に合わせるとき

1 **電源を入れます。**

- インジケーターが緑色に点滅した後、緑色に点灯します。

SYSTEM ON / STANDBY

2 **タイマーボタンを3秒以上押します。**

- “ TIMER ” 表示が点灯し、“ TIME ” が点滅表示します。

※ すでに時刻が設定されている場合は、“ TIMER ” 表示が点灯し、“ EVERYDAY ” が点滅表示します。チューニングボタンを押して、“ TIME ” を点滅表示させてから操作*3*をおこなってください。

TIMER

3 **メモリー/セットボタンを押します。**

- “ TIMER ” 表示が消灯し、“ TIME ” 表示が点灯します。
- 時の桁が点滅します。

MEMORY / SET

TIME 0:00

4 **チューニングボタンを押して、時の桁を『19』に設定します。**

- 時の桁の “ 19 ” が点滅します。

TUNING DOWN UP

TIME 19:00

5 **メモリー/セットボタンを押します。**

- 時の桁の “ 19 ” が点灯し、分の桁が点滅します。

MEMORY / SET

TIME 19:00

6 **チューニングボタンを押して、分の桁を『30』に設定します。**

- 分の桁の “ 30 ” が点滅します。

TUNING DOWN UP

TIME 19:30

7 **時報などに合わせて、メモリー/セットボタンを押します。**

- 分の桁の “ 30 ” が点灯し、現在時刻が表示されます。

MEMORY / SET

TIME 19:30

※ スタンバイ状態のときでもタイマーボタンを1回押して、時計表示中に操作*2*～*7*をおこなうと、現在時刻を合わせることができます。

※ 時刻が設定されている状態で操作*2*、*3*をおこなうと、時と分の桁の両方が点滅します。

※ 本機の時計は電源周波数同期方式です。電源事情によってはズレを生じることがあります。このようなときは時刻を合わせ直してください。

タイマーの使いかた（つづき）

(2) タイマー予約の前に

★必ず現在時刻を設定してください。現在時刻が設定されていない場合、タイマースタンバイ表示“ ◷ ”は点灯せず、タイマー動作できません。
★タイマー予約をおこなう前に、必ず放送をプリセットしておいてください。
（23ページの「FM/AM放送のプリセットのしかた」を参照してください。）
★エブリデイタイマー：毎日1回同じ時刻に電源のON/STANDBY（OFF）ができます。
ワンスタイマー　　：1回のみ指定した時刻に電源をON/STANDBY（OFF）できます。
★タイマーが動作しているとき（タイマーの開始時刻以降）は、タイマースタンバイの設定を変更しないでください。正常なタイマー動作をおこなわなくなることがあります。
★タイマーの開始時刻と終了時刻を同じ時間に設定することはできません。
★ディスプレイの表示内容や動作に異常があった場合は、電源コードをコンセントから抜き、チューニングダウンボタン（TUNING DOWN）とトーンボタン（TONE）を押しながらもう一度電源プラグをコンセントに差し込んでください。すべての状態が初期化されます。この場合、プリセット、現在時刻およびタイマー時刻の設定をやり直してください。
★CDプレーヤー、カセットデッキおよびMDレコーダーでタイマー動作をさせるときは、ディスクまたはカセットテープを装着してディスクホルダーまたはカセットホルダーを閉じた状態にしてください。
ディスクまたはカセットテープが装着されていなかったり、ディスクホルダーまたはカセットホルダーが開いたままですと正常なタイマー動作はおこなわれません。

(3) タイマー予約のしかた

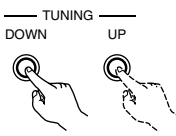
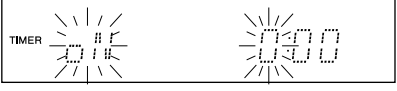
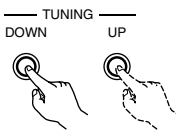
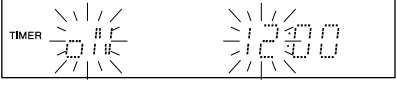
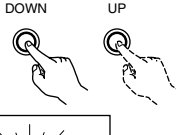
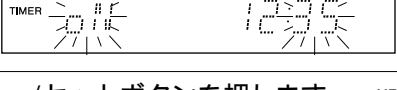
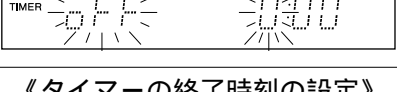
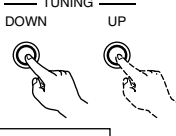
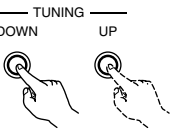
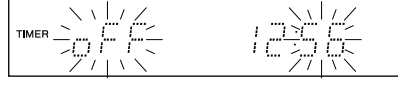
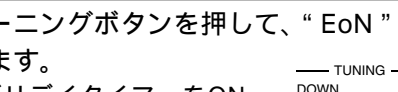
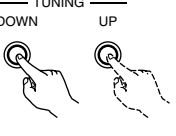
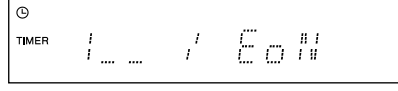
★お好みの時間に本機の電源を自動的にON/スタンバイできます。
★D-F101シリーズとシステム接続をすると、CDプレーヤー、カセットデッキおよびMDレコーダーのいずれかのタイマー再生や、MDレコーダーまたはカセットデッキへの留守録（AIR CHECK）などもおこなうことができます。（「システム機能について」の30〜35ページを参照してください。）

【例】プリセット番号3（FM82.5MHz）を12時35分から12時56分まで聞くとき

1 **電源を入れます。**
● インジケーターが緑色に点滅した後、緑色に点灯します。

2 **タイマーボタンを3秒以上押します。**
●“ TIMER ” 表示が点灯し、“ EVERYDAY ” が点滅表示します。
※ 時刻が設定されていない場合は、“ TIME ” が点滅表示します。
25ページの操作*3*〜*7*をおこなってから、もう一度タイマー予約をおこなってください。

3 **チューニングボタンを押して、設定するタイマー“ EVERYDAY ” または“ ONCE ”を表示させます。**

4 **メモリー/セットボタンを押します。**
● タイマー予約モードのファンクション設定状態になります。
【例】エブリデイタイマーを選択した場合

5 **チューニングボタンを押して、ファンクションを『TUNER』に切り替えます。**
※ ボタンを押すたびに、ファンクションが次のように切り替わります。

（次ページにつづきます）

タイマーの使いかた（つづき）

6 **メモリー/セットボタンを押します。**
- タイマーのファンクションに『TUNER』がメモリーされます。

7 **チューニングボタンを押して、プリセット番号を『3』に設定します。**

8 **メモリー/セットボタンを押します。**
- 選局内容がメモリーされ、タイマーの開始時刻設定状態になります。

《タイマーの開始時刻の設定》

9 **チューニングボタンを押して、時の桁を『12』に設定します。**

10 **メモリー/セットボタンを押します。**
- 時の桁『12』がメモリーされます。

11 **チューニングボタンを押して、分の桁を『35』に設定します。**

12 **メモリー/セットボタンを押します。**
- 開始時刻がメモリーされ、タイマーの終了時刻設定状態になります。

《タイマーの終了時刻の設定》

13 **チューニングボタンを押して、時の桁を『12』に設定します。**

14 **メモリー/セットボタンを押します。**
- 時の桁『12』がメモリーされます。

15 **チューニングボタンを押して、分の桁を『56』に設定します。**

16 **メモリー/セットボタンを押します。**
- 終了時刻がメモリーされます。

17 **チューニングボタンを押して、“ EoN ”を表示させます。**
- エブリデイタイマーをONにしてタイマースタンバイ表示“ ◷ ”が点灯し、タイマー予約が完了します。

※ 詳しくは、28ページの「エブリデイタイマー/ワンスタイマーのON/OFFについて」をご覧ください。

（約5秒後、周波数表示に戻ります。）

18 **電源を切ります。**
- スタンバイ状態になります。（電源インジケーターがオレンジ色になります。）

※ タイマー開始時刻になると、タイマーが動作します。
※ 操作*3*で“ ONCE ”を選択した場合、ワンスタイマーの予約になります。同様の操作で予約をおこないます。操作*4*と操作*8*～*15*ではディスプレイ“ E ”の表示が“ 1 ”（ワンス）の表示になります。
操作*17*で“ 1oN ”を表示させると、ワンスタイマーが動作します。

ご注意

- タイマースタンバイ表示“ ◷ ”は、現在時刻が設定されていない場合は点灯しません。この場合は、現在時刻を設定してください。（25ページの「現在時刻の合わせかた」を参照してください。）
- スタンバイ状態でタイマーの開始時刻になったとき、タイマーで設定された動作に切り替わります。（タイマーの設定内容を優先します。）
- タイマー動作をさせるときは、スタンバイ状態にしてください。電源がONの状態のままですと正常なタイマー動作をおこなわなくなることがあります。

タイマーの使いかた（つづき）

(4）エブリデイタイマー/ワンスタイマーのON/OFFについて

★『(3）タイマーの予約のしかた』（26、27ページ）で予約を完了した後、エブリデイタイマー/ワンスタイマーをONにしてタイマー動作をおこないます。

1

タイマーボタンを押して、タイマースタンバイ設定モードにします。

TIMER

● 現在の設定内容が表示されます。

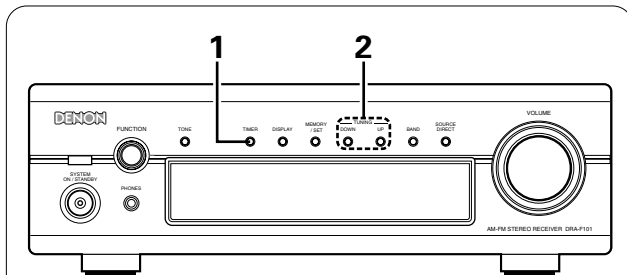
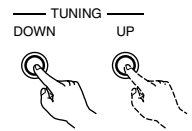
2

チューニングボタンを押して、タイマー動作をおこなうタイマーを選択します。

※ チューニングボタンを押すたびに、次のように設定が変わります。

1oN / EoN 両方とも動作する
↕
1_ _ / EoN エブリデイタイマーのみ動作する
↕
1oN / E_ _ ワンスタイマーのみ動作する
↕
1_ _ / E_ _ 両方とも動作しない

● ワンスタイマーとエブリデイタイマーのどちらかが有効なとき、タイマースタンバイ表示“ ◷ ”が点灯します。ディスプレイ表示は約5秒後、自動的に元の表示に戻ります。

※ **タイマー動作をおこなわないとき**は、操作***2*** でタイマースタンバイ表示“ ◷ ”を消灯させてください。

● ワンスタイマーのみ予約した場合、チューニングボタンを押すたびに、次のように設定が変わります。

1oN / E_ _ ↔ 1_ _ / E_ _

● エブリデイタイマーのみ予約した場合、プリセット/チューニングボタンを押すたびに、次のように設定が変わります。

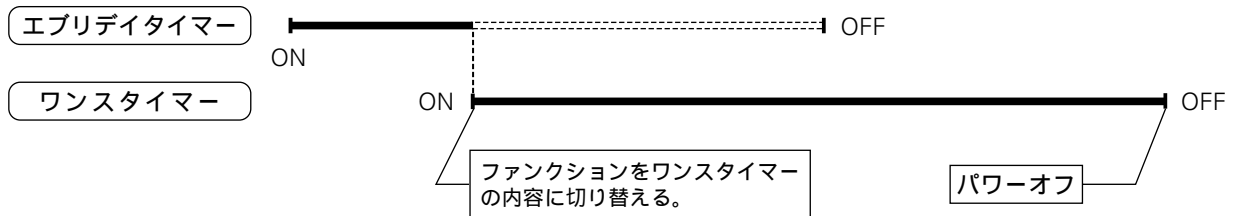
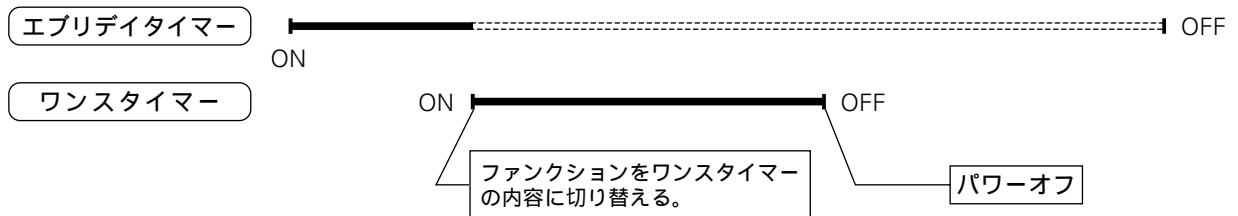
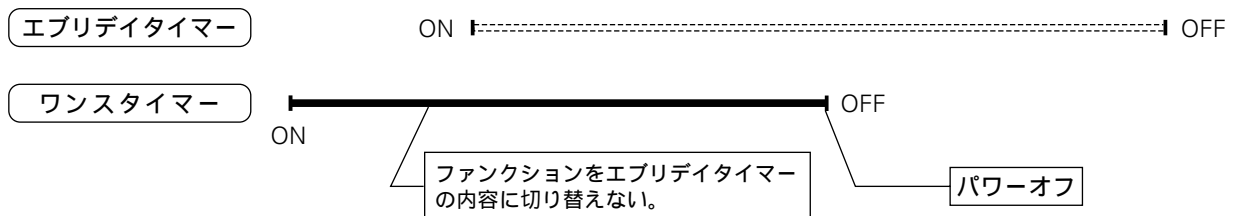
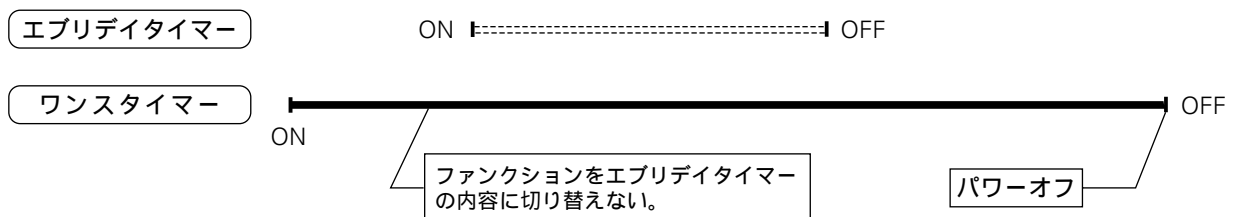
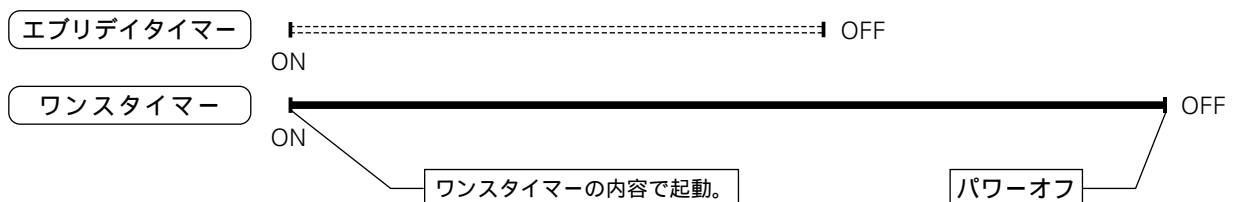
1_ _ / EoN ↔ 1_ _ / E_ _

ご注意

● タイマースタンバイ表示“ ◷ ”は、現在時刻が設定されていない場合は点灯しません。現在時刻を設定してください。（25ページ参照）
● エブリデイタイマー、ワンスタイマーの設定時刻が重なったときは、ワンスタイマーが優先されます。（29ページ参照）
● タイマー動作をさせるときは、必ず電源をスタンバイ状態にしておいてください。

（5）エブリデイタイマーとワンスタイマーの優先順位について

★エブリデイタイマー/ワンスタイマーの予約設定時刻範囲が重なったときは、ワンスタイマーが優先されます。

【例1】エブリデイタイマーで電源がONになった後、ワンスタイマーの開始時刻になった場合①

【例2】エブリデイタイマーで電源がONになった後、ワンスタイマーの開始時刻になった場合②

【例3】ワンスタイマーで電源がONになった後、エブリデイタイマーの開始時刻になった場合①

【例4】ワンスタイマーで電源がONになった後、エブリデイタイマーの開始時刻になった場合②

【例5】エブリデイタイマーとワンスタイマーの開始時刻が同じ時刻の場合

ご注意

【例2】、【例3】でワンスタイマーでパワーオフしてからエブリデイタイマーの終了時刻までの間に電源をONにした場合は、エブリデイタイマーの終了時刻でパワーオフします。

（6）タイマー予約について

■ タイマー予約内容を確認するとき

◎タイマー予約の動作と同じ方法で確認できます。

① タイマーボタンを3秒以上押して、時計・タイマー設定モードにします。

② チューニングボタンを押して、確認したい“ EVERYDAY ”または“ ONCE ”を表示させます。

③ メモリー/セットボタンを押すたびに、設定された開始時刻、終了時刻、タイマースタンバイ設定の順に表示されます。

■ タイマー動作をおこなわないとき

◎「（4）エブリデイタイマー/ワンスタイマーのON/OFFについて」に従って、動作しないモードを選択してください。

■ タイマー予約の内容を変更するとき

◎変更する内容でタイマー予約をおこなってください。

◎前に予約された内容が消えて、新しく予約された内容に変わります。

■ 停電になったとき

◎停電になったときや電源コードをコンセントから抜いたときには、時計表示は点滅します。もう一度現在の時刻を合わせてください。
また、タイマーとチューナーのプリセット内容が消えていた場合も、もう一度プリセットしてください。

11 システム機能について

★ 本機をD-F101シリーズとシステム接続をすると、便利なシステム機能が働きます。
（接続のしかたは8、9ページの「接続のしかた」を参照してください。）

★ システム機能が働くのは、D-F101シリーズの機器を接続したときのみです。それ以外の機器を接続してもシステム機能は働きません。

★ システム接続をして使用する場合、下記のようなシステム機能が働きます。

（1）本機に付属のシステムリモコン（RC-927）で各機器の主な操作をおこなうことができます。

（2）各々の機器のリモコン信号は本機のリモコン受光部で受信します。

（3）**オートパワーオン機能**
システム全体がスタンバイ状態のときに、本機に付属のシステムリモコン（RC-927）のファンクション切り替えスイッチを『CD』、『MD』、または『TAPE』に合わせてプレイ/ポーズボタン（▶ ❚❚）を押すだけでそれぞれの電源が入り、再生をおこなうことができます。

（4）**オートファンクション機能**
CDプレーヤー（DCD-F101）、カセットデッキ（DRR-F101）、またはMDレコーダー（DMD-F101）のプレイ/ポーズボタン（▶ ❚❚）を押すと本機のファンクションが切り替わり、それぞれの再生をおこなうことができます。

（5）**CDシンクロ録音機能**
カセットデッキ（DRR-F101）またはMDレコーダー（DMD-F101）のCDシンクロボタン（CD SRS）を押すだけで、CDをそれぞれの機器へ録音することができます。

（6）**同期録音機能**
カセットデッキ（DRR-F101）またはMDレコーダー（DMD-F101）を録音一時停止状態にして、CDプレーヤー（DCD-F101）のプレイ/ポーズボタン（▶ ❚❚）を押すと自動的に録音がはじまります。
カセットデッキ（DRR-F101）およびMDレコーダー（DMD-F101）、のそれぞれの機器間でも同様に録音できます。

（7）**タイマー機能**
本機のタイマー機能を使用して、設定された時刻に再生やラジオ放送の留守録（AIR CHECK）をおこなうことができます。
また、スリープタイマー機能もおこなうことができます。

★ それぞれの操作については、各機器の取扱説明書を参照してください。

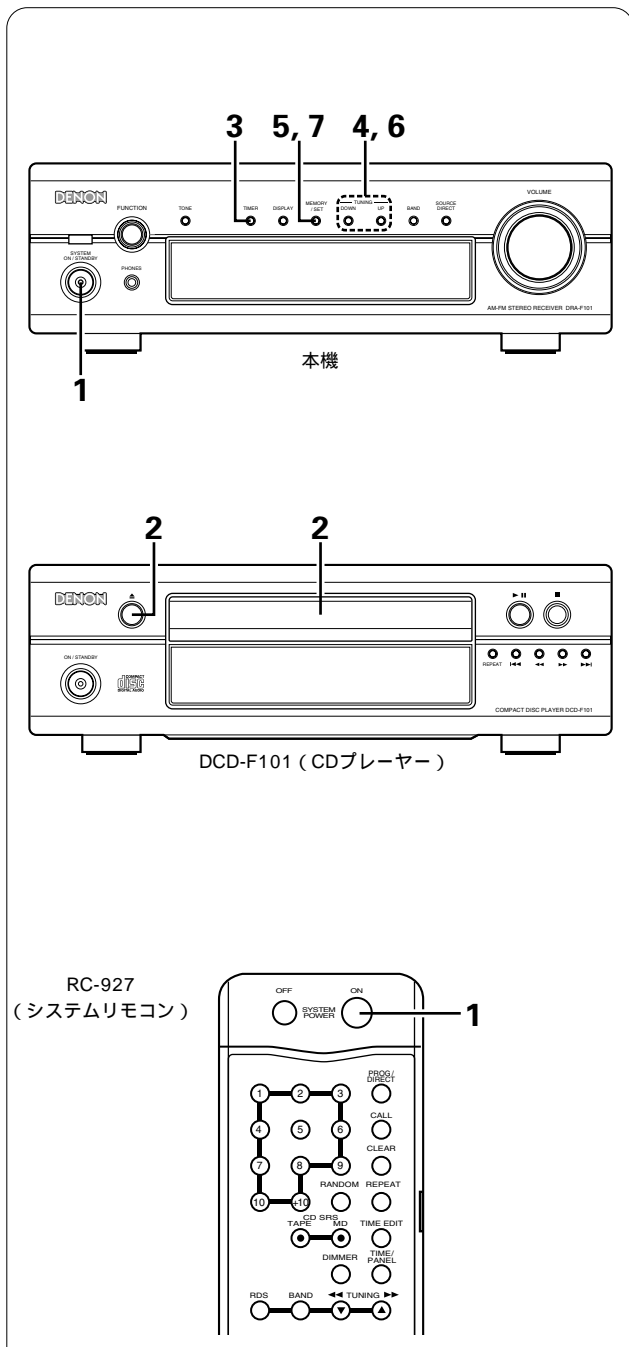
（1）タイマー機能①　『D-F101シリーズのタイマー再生』

本機

DCD-F101（CDプレーヤー）

RC-927（システムリモコン）

1 **本機の電源を入れます。**

● システムの電源が入ります。

SYSTEM ON / STANDBY（本機）　SYSTEM POWER ON（リモコン）

2 **タイマー再生をおこなうD-F101シリーズのユニットをセッティングします。**

※ CDを再生する場合は、CDプレーヤー（DCD-F101）のディスクホルダーにタイマー再生するCDを入れ、ディスクホルダーを閉じます。

（DCD-F101）

3 **本機のタイマーボタンを3秒以上押します。**

●“ EVERYDAY ” が表示されます。

※時刻が設定されていない場合は“ TIME ” が表示されます。25ページの操作*3*～*7*をおこなってから、もう一度タイマー予約をおこなってください。

TIMER（本機）

4 **本機のチューニングボタンを押して、設定するタイマー“ EVERYDAY ” または“ ONCE ” を表示させます。**

TUNING DOWN UP（本機）

5 **本機のメモリー/セットボタンを押します。**

● タイマー予約モードのファンクション設定状態になります。

MEMORY / SET（本機）

【例】エブリデイタイマーを選択した場合

TIMER E FUNC

6 **本機のチューニングボタンを押して、タイマー再生するファンクションソースに切り替えます。**

TUNING DOWN UP（本機）

TIMER E CD

7 **本機のメモリー/セットボタンを押します。**

● タイマーのファンクションがメモリーされます。

MEMORY / SET（本機）

8 **以下の操作は、「タイマー予約のしかた」（26、27ページ）の操作*9*～*18*をおこなってください。**

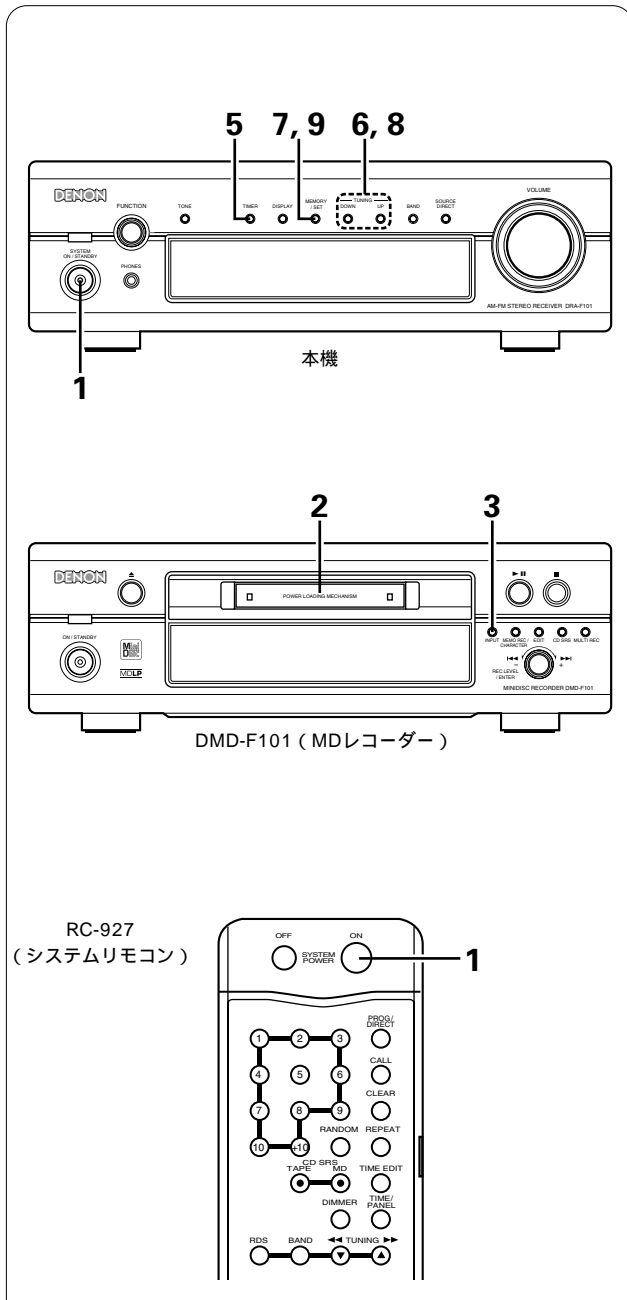
ご注意

- CDプレーヤーおよびMDレコーダーは1曲目から、カセットデッキは現在のテープ位置から再生をはじめます。
- D-F101シリーズとシステム接続して、通常の再生や録音をおこなっているときに、タイマー再生または留守録（AIR CHECK）が開始された場合は、タイマー設定内容が優先されます。通常の再生や録音をおこなう場合は、タイマースタンバイ表示“ ◷ ”を消灯させてください。

（2）タイマー機能②　『ラジオ放送のMDへの留守録』

本機

DMD-F101（MDレコーダー）

RC-927
（システムリモコン）

1	**本機の電源を入れます。** ● システムの電源が入ります。 SYSTEM ON / STANDBY（本機）　SYSTEM POWER ON（リモコン）
2	**MDレコーダーのディスク挿入口にタイマー録音をおこなうディスクを入れます。**
3	**MDレコーダーの入力切り替えボタンを押して『Analog』に切り替えます。** INPUT （DMD-F101）
4	**録音レベルなどの調整や録音モードの設定をします。** ※ 詳細はMDレコーダー（DMD-F101）の取扱説明書を参照してください。

5	**本機のタイマーボタンを3秒以上押します。** ●“ EVERYDAY ” が表示されます。 ※ 時刻が設定されていない場合は “ TIME ” が表示されます。25ページの操作*3* ～*7* をおこなってから、もう一度タイマー予約をおこなってください。 TIMER（本機）
6	**本機のチューニングボタンを押して、設定するタイマー “ EVERYDAY ” または “ ONCE ” を表示させます。** TUNING DOWN UP（本機）
7	**本機のメモリー/セットボタンを押します。** ● タイマー予約モードのファンクション設定状態になります。 MEMORY / SET（本機） 【例】エブリデイタイマーを選択した場合 TIMER　E FUNC
8	**本機のチューニングボタンを押して、ファンクションを『TU→MD』に切り替えます。** TUNING DOWN UP（本機） TIMER　E TU MD
9	**本機のメモリー/セットボタンを押します。** ● タイマーのファンクションがメモリーされます。 MEMORY / SET（本機）
10	**以下の操作は、「タイマー予約のしかた」（26、27ページ）の操作*7*～*18*をおこなってください。**

ご注意

- エブリデイタイマーで予約した場合、タイマー留守録終了後、本機は再びタイマースタンバイ状態になります。そのため毎日同じ時刻にタイマー録音を続けておこないます。
- タイマー留守録を1回のみおこなうときは、ワンスタイマーで予約してください。
- D-F101シリーズとシステム接続をして通常の録音をおこなっているときにタイマー留守録（AIR CHECK）が開始された場合は、録音している機器がいったん停止して正常に録音できません。通常の録音をおこなう場合は、タイマースタンバイ表示 “ ◷ ” を消灯させてください。

（3）タイマー機能③　『ラジオ放送のカセットテープへの留守録』

1 **本機の電源を入れます。**

● システムの電源が入ります。

（本機）　（リモコン）

2 **カセットデッキにタイマー録音をおこなうカセットテープを入れ、カセットホルダーを閉じます。**

※ カセットテープの録音する面を上に向けて装着してください。
詳細はカセットデッキ（DRR-F101）の取扱説明書を参照してください。

（DRR-F101）

3 **カセットデッキの再生方向表示（◀または▶）をタイマー録音したい方向にします。**

（DRR-F101）（リモコン）

4 **リバースモードを設定します。**

※ 詳細はカセットデッキ（DRR-F101）の取扱説明書を参照してください。

（DRR-F101）

5 **ドルビーNRモードを設定します。**

※ 詳細はカセットデッキ（DRR-F101）の取扱説明書を参照してください。

（DRR-F101）

6 **録音レベルなどの調整や録音モードの設定をします。**

※ 詳細はカセットデッキ（DRR-F101）の取扱説明書を参照してください。

7 **本機のタイマーボタンを3秒以上押します。**

●“ EVERYDAY ”が表示されます。

※ 時刻が設定されていない場合は“ TIME ”が表示されます。25ページの操作*3*～*7*をおこなってから、もう一度タイマー予約をおこなってください。

（本機）

8 **本機のチューニングボタンを押して、設定するタイマー“ EVERYDAY ”または“ ONCE ”を表示させます。**

（本機）

9 **本機のメモリー/セットボタンを押します。**

● タイマー予約モードのファンクション設定状態になります。

（本機）

【例】エブリデイタイマーを選択した場合

TIMER　E FUNC

10 **本機のチューニングボタンを押して、ファンクションを『TU→TAPE』に切り替えます。**

（本機）

TIMER　E TU TAPE

（次ページにつづきます）

システム機能について（つづき）

11	**本機のメモリー/セットボタンを押します。** ● タイマーのファンクションがメモリーされます。
12	**以下の操作は、「タイマー予約のしかた」（26、27ページ）の操作*7*〜*18*をおこなってください。**

（本機）

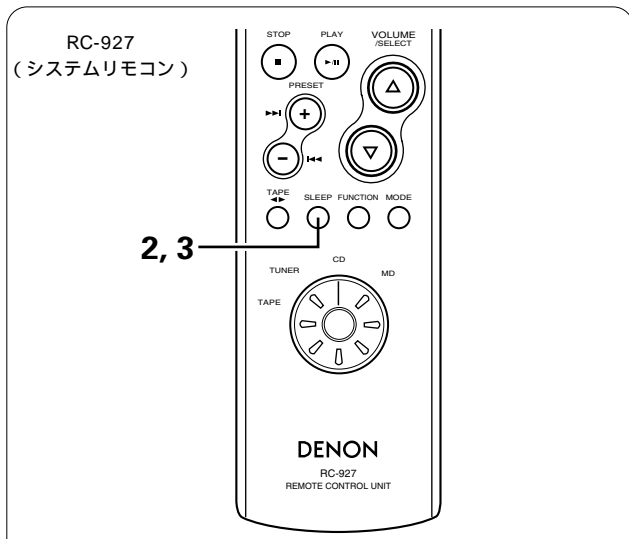
ご注意

- タイマーの留守録は表示されているテープ走行方向でおこなわれます。
- テープの巻きはじめは、リーダーテープなどで録音できない部分がありますので、録音ミスを防ぐため、番組がはじまる1分程度前の時刻に設定してタイマー録音されることをおすすめします。
- エブリデイタイマーで予約した場合、タイマー留守録終了後、本機は再びタイマースタンバイ状態になります。そのため毎日同じ時刻にタイマー録音を続けておこないます。
- タイマー留守録を1回のみおこなうときは、ワンスタイマーで予約してください。
- D-F101シリーズとシステム接続をして通常の録音をおこなっているときにタイマー留守録（AIR CHECK）が開始された場合は、録音している機器がいったん停止して正常に録音できません。通常の録音をおこなう場合は、タイマースタンバイ表示“ ◷ ”を消灯させてください。

システム機能について（つづき）

（4）タイマー機能④　『スリープタイマー』

★システムリモコン（RC-927）を使用して、60分から10分まで10分おきに設定できます。
★設定された時間後に自動的にシステム全体の電源をスタンバイ状態にすることができます。

【例】50分後に電源が切れるように設定するとき

1 **お好みのファンクションを選び、再生します。**

2 **スリープタイマーボタンを押します。**

（リモコン）

● 本機のディスプレイに“ 60 ”が表示され、“ SLEEP ”表示が点滅します。

60 SLEEP

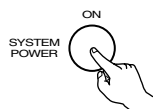
3 **“ SLEEP ”表示が点滅している間に、スリープタイマーボタンをもう一度押します。**

（リモコン）

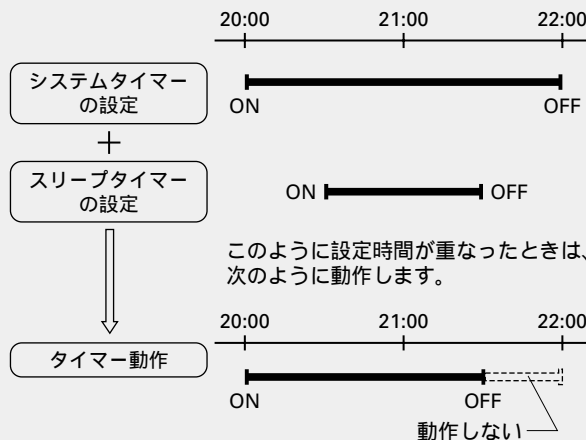
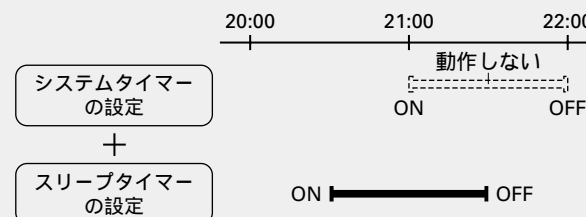
● 本機のディスプレイに“ 50 ”が表示されます。
5秒後、スリープタイマー設定前の状態に戻り、“ SLEEP ”表示が点灯します。（これでスリープタイマーの設定は終了しました。）

50 SLEEP

※ スリープタイマーボタンを続けて押すと、次のように表示が切り替わります。

※ **スリープタイマーを止めるとき**は、スリープタイマーボタンを“ SLEEP ”表示が消灯するまで押すか、本機の電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にしてください。

（本機）　（リモコン）

ご注意

● スリープタイマー動作中にシステムリモコンのスリープタイマーボタン（SLEEP）を押すと、設定時間が60に戻ります。もう一度設定してください。
● スリープタイマーと他のシステムタイマー機能の設定時刻範囲が重なったときは、スリープタイマーを優先します。

● また、スリープタイマーの動作時間内にシステムタイマーの開始時刻を設定してもシステムタイマーは動作しません。

12 故障かな？と思ったら

故障？と思っても、もう一度確かめてみましょう

■ **各接続は正しいですか**
■ **取扱説明書に従って正しく操作していますか**
■ **スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか**

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きとり、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談窓口またはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

	現　象	原　因	処　置	関連ページ
レコード・テープ演奏・FM受信中など共通して起こるとき	電源ボタン（ON/STANDBY）を押しても、インジケーターもディスプレイも点灯せず、音も出ない。	●電源コードが抜けている。	●電源コードプラグの差し込みを点検してください。	8、9、15
	インジケーターとディスプレイは点灯するが、音が出ない。	●スピーカーコードの接続が不完全である。 ●入力切り替えが不適当である。 ●音量（VOLUME）が絞ってある。 ●入力コードの接続が不完全である。 ●ヘッドホンのプラグが挿入されている。	●接続し直してください。 ●正しい位置に切り替えてください。 ●音量調節つまみ（VOLUME）で再調整してください。 ●正しく接続してください。 ●ヘッドホンのプラグを抜いてください。	12 19 19 8、9 13
	片側だけ音が出ない。	●スピーカーコードの接続が不完全である。 ●入力コードの接続が不完全である。 ●左右のバランスがずれている。	●接続し直してください。 ●接続し直してください。 ●バランス調節をしてください。	12 8、9 21
	ステレオのときに、各楽器の位置が左右入れ替わっている。	●左右スピーカー、または左右入力コードの接続が逆になっている。	●左右の接続を確かめてください。	8、9
	FM放送に“ザー”という雑音が入る。	●アンテナケーブルが正しく接続されていますか。 ●マイクロコンピューターを搭載した電子機器などから雑音が入っていませんか。または、受信している放送局の電波が弱くありませんか。	●アンテナケーブルを正しく接続してください。 ●機器の配置や接続コード、アンテナなどの位置や向きを変えてください。 ●屋外アンテナを接続してください。	10、11 6、10、11 11
	AM放送に“シー”や“ザー”という雑音が入る。	●テレビなどから雑音が入っていませんか。または、放送局の干渉音が聞こえませんか。	●テレビを消してください。 ●AM用アンテナの位置や向きを変えてください。 ●屋外アンテナを接続してください。	ー 10 11
	AM放送に“ブーン”という雑音（ハム）が入る。	●電源コードを伝わってくる電波によって妨害を受けていませんか。	●電源プラグの方向を逆に差し込んでみてください。 ●屋外アンテナを接続してください。	ー 11
レコード演奏のとき	レコード演奏のときに音量調節つまみ（VOLUME）を大きくしていくと“ワーン”という音が出る。（ハウリング現象）	●プレーヤーとスピーカーシステムとの距離が近すぎる。 ●床が柔らかく振動しやすい。	●できるだけ離して使うようにしてください。 ●床を伝わってくるスピーカーの振動をクッションで吸収するようにして使用してください。プレーヤーにインシュレーターが付いていないときには、市販のオーディオインシュレーターを使ってください。	— —

故障かな？と思ったら（つづき）

	現　　象	原　　因	処　　置	関連ページ
レコード演奏のとき	レコード演奏のときに、“ブーン”という音が出る。	● プレーヤーのアース線がはずれている。 ● PHONO端子の接続が不完全である。 ● プレーヤーの近くにテレビなどの電気機器があるため、影響を受けている。	● 接続し直してください。 ● 接続し直してください。 ● 設置位置を変えてみてください。	8、9 8、9 —
	音がビリつく。 （ひずんで聞こえる）	● 針圧が適当でない。 ● 針先にゴミがついている。 ● カートリッジの不良。	● 正しい針圧に調整してください。 ● 針先をチェックしてください。 ● カートリッジを交換してください。	— — —
共通	リモコンを操作しても正常に動作しない。	● 乾電池が消耗している。 ● リモコンの距離が離れ過ぎている。 ● 本体とリモコンの間に障害物がある。 ● リモコンの操作方向の角度が正面から30°を超えている。 ● 乾電池の⊕、⊖が正しくセットされていない。	● 新しい乾電池と交換してください。 ● 近づいて操作してください。 ● 障害物を取り除いてください。 ● 本体の正面方向からリモコンを操作してください。 ● 乾電池を正しくセットしてください。	17 17 17 17 17

13 保証とサービスについて

1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保存してください。

2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
万一故障した場合には、保証書の記載内容により、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口が修理を申し受けます。
但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となりますのでご注意ください。
詳しくは保証書をご覧ください。

※修理相談窓口については、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。

4 本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後8年です。

5 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店またはお近くの修理相談窓口にご相談ください。
※当社製品のお問い合わせについては、お客様相談窓口にご連絡ください。
詳しくは、付属品『製品のご相談と修理・サービス窓口一覧表』をご参照ください。

14 主な仕様

■パワーアンプ部

項目	仕様
定格出力	両チャンネル駆動（CD→SP OUT） 25W＋25W（負荷8Ω、20Hz～20kHz）
実用最大出力	45W＋45W（負荷4Ω、EIAJ）
全高周波ひずみ率	0.05%（定格出力－3dB時）、負荷8Ω、1kHz
出力端子	スピーカー：負荷4～16Ω ヘッドホン/ステレオヘッドホン適合

■プリアンプ部

項目	仕様
イコライザーアンプ出力（REC OUT端子）	定格出力　150mV
入力感度/入力インピーダンス	PHONO（MM）：2.5mV/47kΩ CD、DVD/AUX、TAPE、MD：150mV/47kΩ
RIAA偏差	PHONO：20Hz～20kHz±0.5dB（MM）

■チューナー部

項目	仕様
受信周波数帯域	FM：76MHz～108MHz　AM：522kHz～1629kHz
実用感度	FM：1.2μV/75Ω（12.8dBf）　AM：18μV
FMステレオ分離度	40dB（1kHz）
FM SN比	モノラル：74dB　ステレオ：70dB
FM高調波ひずみ率	モノラル：0.3%　ステレオ：0.4%

■時計/タイマー部

項目	仕様
時計方式	電源周波数同期方式
時計精度（月差）	±30秒
タイマー機能	エブリデイタイマー、ワンスタイマー、スリープタイマー（最大 60分）

■総合特性

項目	仕様
SN比（Aネットワーク）	PHONO（MM）：80dB（入力端子短絡、入力信号5mV時） CD、DVD/AUX、TAPE、MD：90dB（入力端子短絡時）
トーン・コントロール	BASS（低域）：100Hz±8dB（ラウドネスOFF時） TREBLE（高域）：10kHz±8dB（ラウドネスOFF時） ラウドネス：100Hz＋8dB、10KHz＋6dB
周波数特性	入力CD、ソースダイレクトON：5Hz～80kHz（＋0.5dB、－3dB）

項目	仕様
■電源コンセント	SWITCHED（連動）　1個　容量100W
■電源	AC100V　50/60Hz
■消費電力	85W（電気用品安全法による）　（スタンバイ時：1W以下）
■最大外形寸法	250（幅）×81.5（高さ）×285（奥行き）mm （含フット、ツマミ、端子）
■質量	3.5kg

■リモコン

項目	仕様
リモコン	RC-927
リモコン方式	赤外線パルス式
電源	DC3V　単4形乾電池2本使用
外形寸法	48（幅）×210（高さ）×29（奥行き）mm
質量	120g（乾電池含む）

※（EIAJ）：（社）電子情報技術産業協会（略称JEITA）が制定した規格です。

※仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

※本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

※本機は国内仕様です。
必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。
AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。

株式会社デノン

本　社　〒113-0034　東京都文京区湯島3-16-11
TEL：（03）3837-5321（代表）

後日のために記入しておいてください。

購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：	年　　月　　日

Printed in China　511 3905 000